

令和３年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和３年１０月
福岡市教育委員会

目次

1	調査概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の対象とする児童生徒	1
(3)	調査事項及び手法	1
(4)	調査の方式	1
(5)	調査日	1
(6)	集計児童生徒・学校数	2
2	調査結果と考察	3
(1)	調査結果と考察の考え方	3
(2)	教科に関する調査結果の概要	3
(3)	小学校国語の調査結果について	7
(4)	小学校算数の調査結果について	11
(5)	中学校国語の調査結果について	15
(6)	中学校数学の調査結果について	20
3	経年変化からみた学力等の状況について	24
(1)	同一児童生徒群（平成30年度小学校6年生、令和3年度中学校3年生）の結果比較	24
(2)	児童生徒質問紙における生活習慣や学習習慣等の状況	26
(3)	授業内容の理解に関する児童生徒質問紙の結果と平均正答率の比較	27
4	問題への取組みの状況及び無回答率の傾向について	28
(1)	児童生徒質問紙調査における、問題への取組みの状況	28
(2)	無回答率の状況	30
(3)	平成28年度から令和3年度における記述式問題での無回答率の状況	31
5	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組みの状況	33
(1)	主体的・対話的で深い学びに関する質問項目①	33
(2)	主体的・対話的で深い学びに関する質問項目②	34
6	I C Tを活用した学習状況	35
(1)	児童生徒質問紙調査の結果について	35
(2)	学校質問紙調査の結果について	36
7	新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業と児童生徒の学習状況・学校の取組みについて	37
(1)	児童生徒質問紙調査の結果について	37
(2)	新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問項目と各教科の平均正答率のクロス集計	39
(3)	学校質問紙調査の結果（新型コロナウイルス感染症の影響前後 [※] の比較）について	41
8	今後の課題	44
9	取組みの方向性	45
(1)	各学校での取組み	45
(2)	教育委員会としての取組み	45

1 調査概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

○小学校調査

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

○中学校調査

- ・中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

国語、算数・数学について、それぞれ「知識に関する問題」と「活用に関する問題」を一体的に問う問題形式

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施

(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査日

令和3年5月27日（木）

	小学校調査	中学校調査
1時限目	国語（45分）	国語（50分）
2時限目	算数（45分）	数学（50分）
2時限目終了後以降	児童質問紙 （20～40分程度）	生徒質問紙 （20～45分程度）

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

- ・児童生徒に対する調査について、令和3年5月27日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計
- ・後日実施の場合、採点及び調査結果の提供は行われるが、全体集計からは除外
- ・学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計

②集計児童生徒数（5月27日に調査を実施した児童生徒数）

○小学校調査

- ・国語 13, 042 人
- ・算数 13, 047 人
- ・児童質問紙 13, 059 人

○中学校調査

- ・国語 11, 181 人
- ・数学 11, 179 人
- ・生徒質問紙 11, 186 人

③集計学校数

○小学校調査

- ・小学校 1 4 4 校
- ・特別支援学校 2 校

○中学校調査

- ・中学校 6 8 校（玄界中学校が対象生徒なし）
- ・特別支援学校 1 校

2 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、福岡市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、福岡市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問紙調査や学校に対する質問紙調査からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果の概要

①教科に関する調査結果の概況

(%)

小学校調査		国語	算数
福岡市(市立)	平均正答率	64	70
福岡県(公立)	平均正答率	66	70
全国(公立)	平均正答率	64.7	70.2

○国語、算数ともに全国平均と同程度である。

(%)

中学校調査		国語	数学
福岡市(市立)	平均正答率	66	60
福岡県(公立)	平均正答率	65	58
全国(公立)	平均正答率	64.6	57.2

○国語、数学ともに全国平均を上回る。

②教科ごとの正答数分布

【小学校】

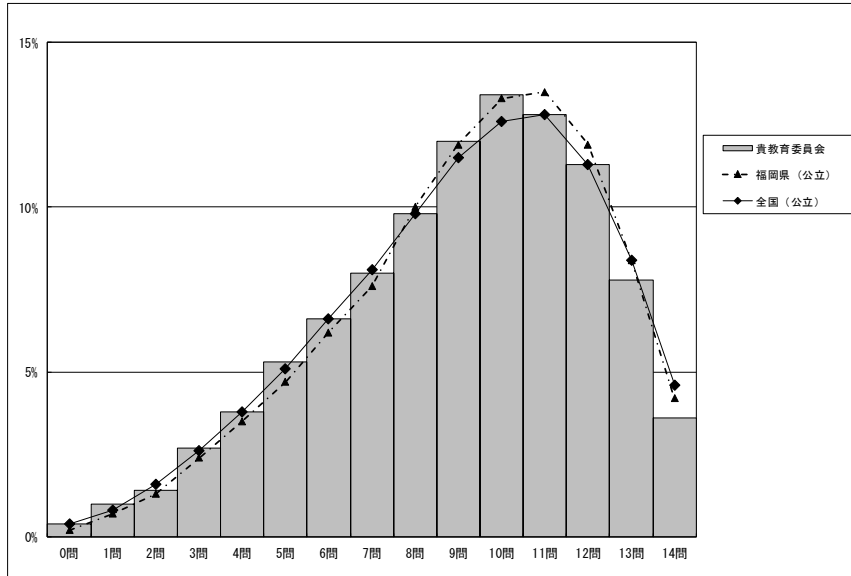
令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 【国語】
福岡市教育委員会－児童

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	13,042	9.0 / 14	64	9.0	3.0
福岡県（公立）	43,473	9.2 / 14	66	10.0	3.0
全国（公立）	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
14問	472	3.6	4.2	4.6
13問	1,018	7.8	8.4	8.4
12問	1,477	11.3	11.9	11.3
11問	1,663	12.8	13.5	12.8
10問	1,742	13.4	13.3	12.6
9問	1,571	12.0	11.9	11.5
8問	1,284	9.8	10.0	9.8
7問	1,049	8.0	7.6	8.1
6問	857	6.6	6.2	6.6
5問	689	5.3	4.7	5.1
4問	499	3.8	3.5	3.8
3問	355	2.7	2.4	2.6
2問	187	1.4	1.3	1.6
1問	131	1.0	0.7	0.8
0問	48	0.4	0.2	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	10.0問	9.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

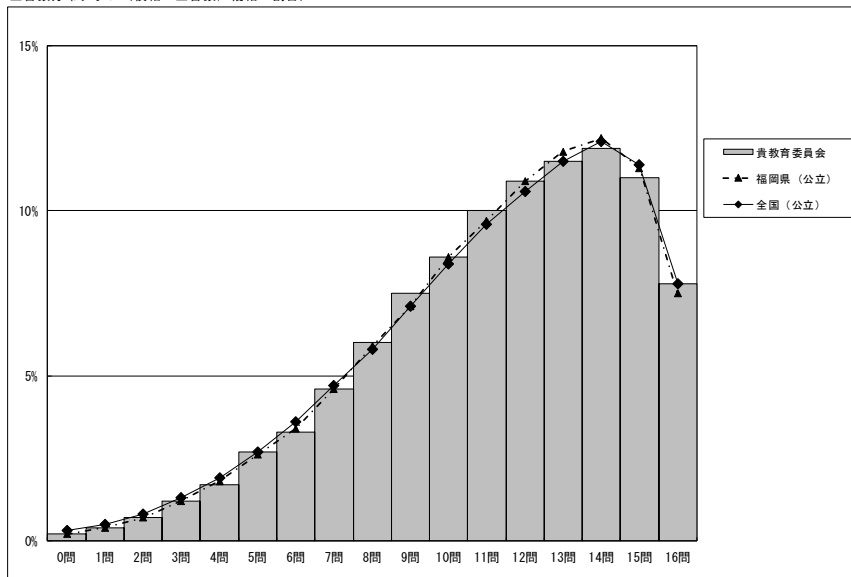
令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 【算数】
福岡市教育委員会－児童

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	13,047	11.3 / 16	70	12.0	3.4
福岡県（公立）	43,483	11.3 / 16	70	12.0	3.4
全国（公立）	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
16問	1,022	7.8	7.5	7.8
15問	1,437	11.0	11.3	11.4
14問	1,549	11.9	12.2	12.1
13問	1,495	11.5	11.8	11.5
12問	1,416	10.9	10.9	10.6
11問	1,310	10.0	9.7	9.6
10問	1,122	8.6	8.6	8.4
9問	976	7.5	7.1	7.1
8問	778	6.0	5.9	5.8
7問	606	4.6	4.6	4.7
6問	431	3.3	3.4	3.6
5問	348	2.7	2.6	2.7
4問	222	1.7	1.8	1.9
3問	161	1.2	1.2	1.3
2問	91	0.7	0.7	0.8
1問	52	0.4	0.4	0.5
0問	31	0.2	0.2	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	14.0問	14.0問	14.0問
◇ 第2四分位	12.0問	12.0問	12.0問
▽ 第1四分位	9.0問	9.0問	9.0問

【中学校】

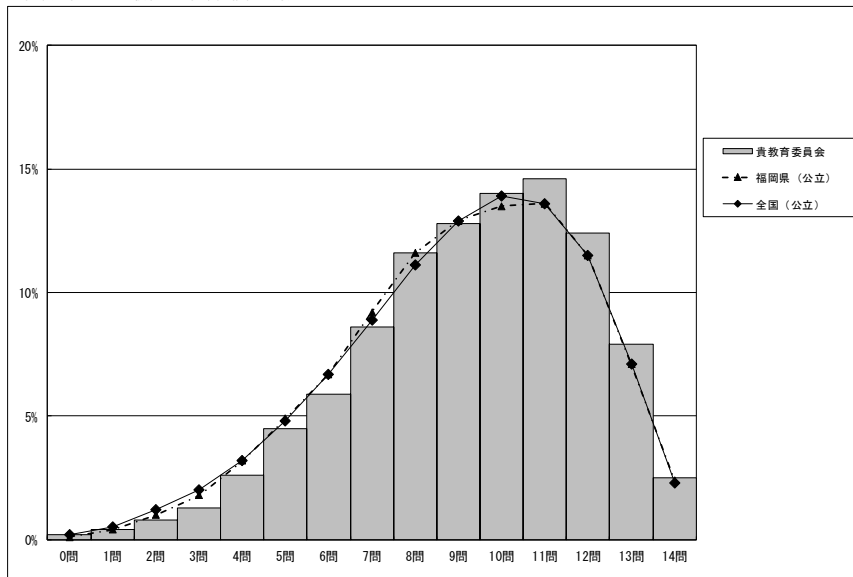
令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
福岡市教育委員会一生徒

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	11,181	9.3 / 14	66	10.0	2.7
福岡県(公立)	39,098	9.1 / 14	65	9.0	2.8
全国(公立)	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)	割合(%)	割合(%)
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
14問	283	2.5	2.4	2.3
13問	880	7.9	7.1	7.1
12問	1,386	12.4	11.5	11.5
11問	1,633	14.6	13.6	13.6
10問	1,560	14.0	13.5	13.9
9問	1,435	12.8	12.9	12.9
8問	1,299	11.6	11.6	11.1
7問	959	8.6	9.2	8.9
6問	656	5.9	6.7	6.7
5問	503	4.5	4.9	4.8
4問	292	2.6	3.2	3.2
3問	145	1.3	1.8	2.0
2問	92	0.8	1.0	1.2
1問	41	0.4	0.4	0.5
0問	17	0.2	0.1	0.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	10.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問	7.0問

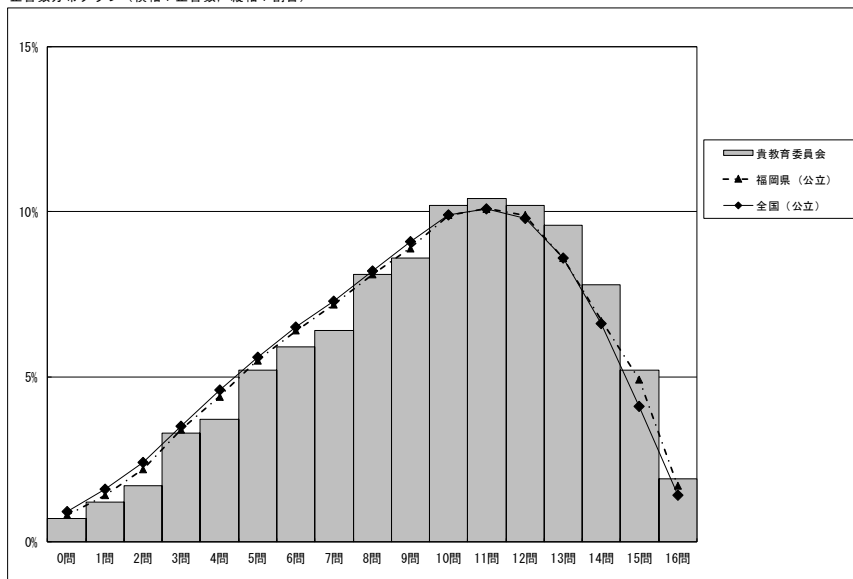
令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学]
福岡市教育委員会一生徒

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	11,179	9.6 / 16	60	10.0	3.7
福岡県(公立)	39,096	9.3 / 16	58	10.0	3.7
全国(公立)	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)	割合(%)	割合(%)
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
16問	207	1.9	1.7	1.4
15問	578	5.2	4.9	4.1
14問	869	7.8	6.7	6.6
13問	1,074	9.6	8.6	8.6
12問	1,142	10.2	9.9	9.8
11問	1,164	10.4	10.1	10.1
10問	1,138	10.2	9.9	9.9
9問	961	8.6	8.9	9.1
8問	901	8.1	8.1	8.2
7問	715	6.4	7.2	7.3
6問	662	5.9	6.4	6.5
5問	583	5.2	5.5	5.6
4問	413	3.7	4.4	4.6
3問	371	3.3	3.4	3.5
2問	189	1.7	2.2	2.4
1問	136	1.2	1.4	1.6
0問	76	0.7	0.8	0.9

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	6.0問

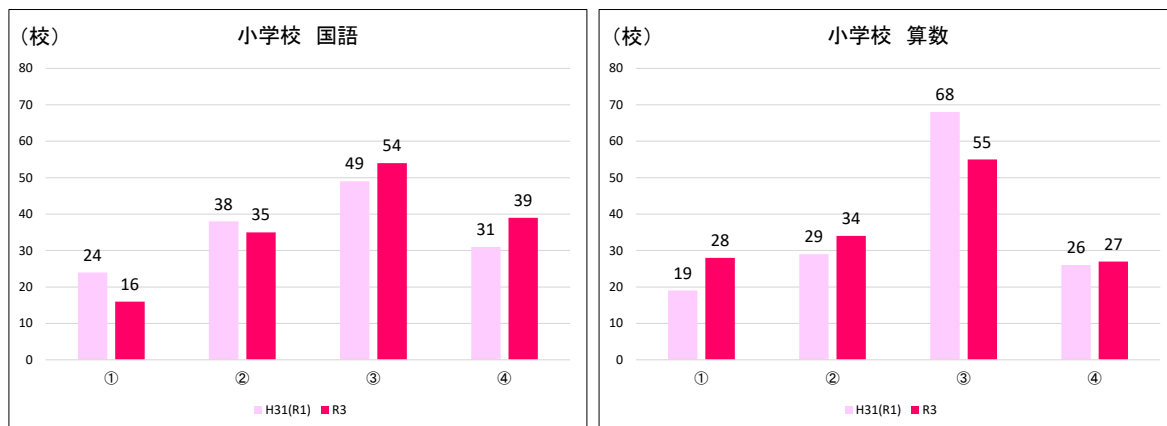
③令和元年度調査と令和3年度調査の4段階の学校数の比較

「4段階」とは

全国と各学校を比較し、その結果を「上回っている」「やや上回っている」「同程度である」「努力を要する」の4段階で区分したもの

【小学校】

①上回っている、②やや上回っている、③同程度である、④努力を要する

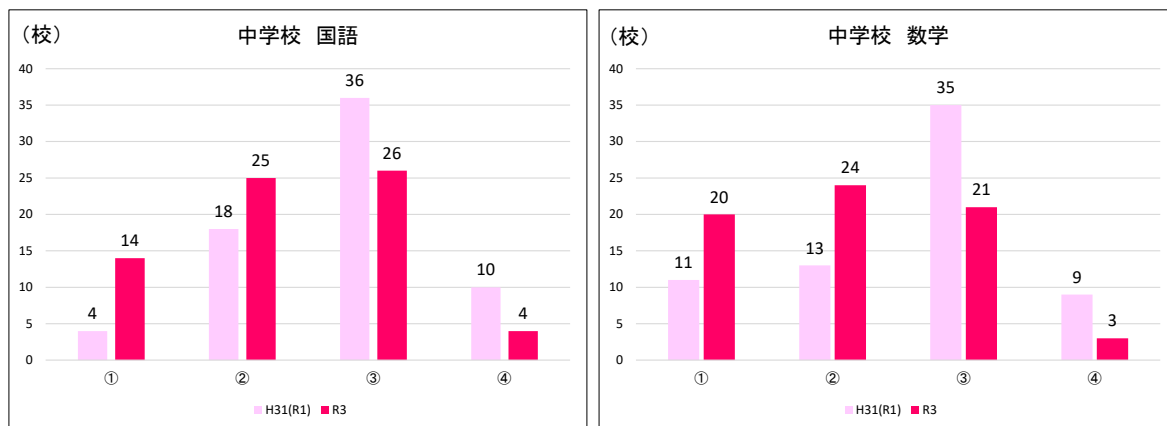


◆国語については、「①上回っている」「②やや上回っている」の学校数が減少し、「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が増加している。

◆算数については、「③同程度である」の学校数が減少し、「①上回っている」「②やや上回っている」「④努力を要する」の学校数が増加している。

【中学校】

①上回っている、②やや上回っている、③同程度である、④努力を要する



◆国語については、「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が減少し、「①上回っている」「②やや上回っている」の学校数が増加している。

◆数学については、「③同程度である」「④努力を要する」の学校数が減少し、「①上回っている」「②やや上回っている」の学校数が増加している。

(3) 小学校国語の調査結果について

①内容及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、 上回っている 下回っている

分類		区分	平均正答率(%)	
			福岡市	全国（公立）
全体			64	64.7
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.0	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	80.4	77.8
		B 書くこと	59.5	60.7
		C 読むこと	47.6	47.2
評価の観点		知識・技能	66.0	68.3
		思考・判断・表現	62.9	62.1
		主体的に学習に取り組む態度		

◆学習指導要領の内容では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「B 書くこと」において、全国を下回った。

◆評価の観点では、「知識・技能」において、全国を下回った。

②平均正答率が高かった問題

(%)

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の の部分で話す内容として適切なものを選択する	82.7	81.0	+1.7
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	89.1	87.5	+1.6

◆問題番号1三は、「目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、問題中に出てくる人物の伝える意図を踏まえ、資料を使って話す内容を捉えることができている。

◆問題番号2二は、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、複数の情報を比べる場合の言い方である「～は～より…」と同じ使い方の文を捉えることができている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要
2	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く

[illegible]

【正答例】メストラルは、ゴボウの実が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくっつく仕組みの面ファスナーを作り出した。(80字)

正答率 : 福岡市…33.1%
全 国…34.4%
無回答率 : 福岡市… 4.7%
全 国… 4.1%

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① 以下の内容を取り上げて書いている。
 a ヒントとなったこと
 b 面ファスナーのくつつく仕組み
- ② 【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」から言葉や分を取り上げて書いているもの。
- ③ 50 字以上、80 字以内で書いている。

(正答以外の解答状況)

ア aは満たしているが、bは満たしていない…41.7%

イ bは満たしているが、aは満たしていない…9.9%

ウ ②は満たしているが、abは満たしていない…8.6%

- ◆アについては、ヒントになったことが分かるように書いているが、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書いていないため、【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」とを結び付けて必要な情報を見付けることができていない。
- ◆イについては、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書いているが、ヒントとなったことが分かるように書いていないため、アと同様に【資料】と「面ファスナーの仕組み」とを結び付けて必要な情報を見付けることができていない。
- ◆ウについては、【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書いているが、ヒントとなったこともくっつく仕組みも書いていないことから、問題で求められている「相川さんが考えていること」を捉えることができていない。
- ◆約半数の児童が、正答の条件の一部について書くことができています。特に、aは満たしている児童は41.7%であり、正答率を上回っていることから、指示された条件が複数になることや、文章と図表とを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がみられる。

問題番号	問題の概要
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く

四 相川さんは「資料」を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているかを、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションでの使われ方について書くこと。
- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十字以上、七十字以内をまとめて書くこと。

※ 半分の長さ(約35文字)程度で、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。※ のなかから書きましょう。どちらか一方を書き加えて、続けを書き加えても構いません。

面ファスナー

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで発明された。山に登ったジョージ・デ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実にくっついていくことに気が立ちました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先のとがった糸状のものがついていて、それがくっついていました。そのとがが犬の毛にからみついていたので、このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数日後、特許を申請し、面ファスナーを作りました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に広がりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバーの頭は、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、ヘッドレストカバーを交換する必要がありました。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬヘッドレストカバーの交換は、面ファスナーのおかげで、簡単にできるようになりました。

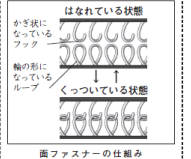
一九八〇年代には、私たちの身の回りにも使われるようになりました。財布やバッグ、かばんなどの家庭用品をはじめ、サボリタイや虫歯針の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていました。布のようには柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができ、面ファスナーが通じていたからです。中でも大流行したのは、面ファスナーを使った運動着でした。でもくっつくに比べ、手間をかけずに目的の好みに合わせてめがけを調節することができ、さまざまな色が与えられたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く、熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつく簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球の重力のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ベンチやスリッパ、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようにもなっています。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの生活に広がり、活躍の場を広げてきました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にも広がり、さらなる便利さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部



面ファスナーのはたらき

【正答例】面ファスナーはしっかりとくっつきかん単にはがせることから、物がうかぶ国際うちゅうステーションの中で、身の回りのすべての物の固定に使われている。(70字)

正答率 : 福岡市…29.7%
全 国…29.7%
無回答率 : 福岡市… 7.0%
全 国… 5.5%

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① 以下の内容を取り上げて書いている。
a 【資料】で説明された面ファスナーのよさ
b 【資料】で説明された国際宇宙ステーションでの使われ方
② 【資料】から言葉や文を取り上げて書いているもの。
③ 50字以上、70字以内で書いている。

(正答以外の解答状況)
ア aは満たしているが、bは満たしていない…8.0%
イ bは満たしているが、aは満たしていない…43.2%
ウ ②は満たしているが、abは満たしていない…10.2%

◆アについては、面ファスナーのよさを取り上げて書いているが、国際宇宙ステーションでの使われ方については書いていないため、必要な情報を見付けることに課題がみられる。

◆イについては、国際宇宙ステーションでの使われ方について書いているが、面ファスナーのよさを取り上げて書いていないため、アと同様に、必要な情報を見付けることに課題がみられる。

◆ウについては、【資料】から言葉や分を取り上げて書いているが、面ファスナーのよさも、国際宇宙ステーションでの使われ方も書いておらず、アやイと同様に、必要な情報を見付けることに課題がみられる。

◆半数以上の児童が、正答の条件の一部について書くことができている。特に、bは満たしている児童は43.2%であり、正答率を上回っていることから、前出の問題番号2三と同様に、指示された条件が複数になることや、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がみられる。

④国語に関する児童質問紙及び学校質問紙調査の結果（肯定的回答率の比較）

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
43	国語の勉強は好きですか	54.5	58.4	-3.9
44	国語の勉強は大切だと思いますか	92.6	93.2	-0.6
45	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.1	84.2	-3.1

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
53	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか	83.6	89.6	-6.0
54	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか	90.4	93.9	-3.5

(4) 小学校算数の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、			
		上回っている	下回っている
分類	区分	平均正答率(%)	
		福岡市	全国（公立）
全体		70	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	63.0	63.1
	B 図形	55.9	57.9
	C 測定	75.1	74.8
	C 変化と関係	76.3	75.9
	D データの活用	77.4	76.0
評価の観点	知識・技能	74.0	74.1
	思考・判断・表現	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度		

◆学習指導要領の領域では、「A 数と計算」「B 図形」において、全国を下回った。

◆評価の観点では、「知識・技能」において、全国を下回った。

②平均正答率が高かった問題

(%)

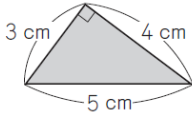
問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3 (1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	96.1	95.8	+0.3
3 (2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	92.1	90.7	+1.4

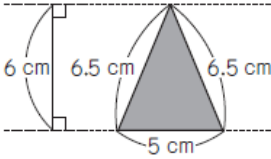
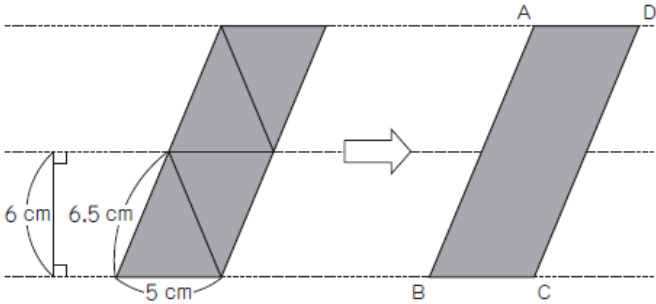
◆問題番号3(1)は、「棒グラフから、数量を読み取ることができるかどうかをみる」ことが出題の意図であり、棒グラフの最小目盛りが50に当たることを捉え、6年生の貸し出し冊数について読み取れており、棒グラフからデータの特徴や傾向を読み取ることについてはできている。

◆問題番号3(2)は、「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる」ことが出題の意図であり、学年ごとの貸し出し冊数の関係について読み取ることができる。

◆「D データの活用」棒グラフについて、数量を読むことに加えて、最大値や最小値を捉えたり、項目間の関係、集団のもつ全体的な特徴などを読み取ったりすることについてはできている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要
2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く
2	図1のような直角三角形があります。  図1 (1) 図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。 求める式と答えを書きましょう。 正答率： 福岡市…49.3% 全 国…55.1% 無回答率： 福岡市… 1.5% 全 国… 1.6% 【正答】 (式) $3 \times 4 \div 2$ (答え) 6 (cm^2) (正答以外の解答状況) ア $3 \times 4 \times 5$ または $3 \times 4 \times 5 \div 2$ と解答し、6 以外を解答しているものや無回答…25.5% イ 3×4 と解答し、12 と解答しているもの…9.8% ウ $5 \times 3 \div 2$ または $5 \times 4 \div 2$ と解答し、6 以外を解答しているもの…4.1% ◆アについては、25.5%と高くなっており、このことは、三角形の面積を求める公式について理解できておらず、示された全ての辺の長さに着目して立式しており、必要な情報を選び出すことができていない。 ◆イについては、底辺と高さを捉えることはできているが、三角形の面積を求める公式を適切に用いることができていない。 ◆ウについては、水平な辺を底辺としており、三角形の底辺や高さの関係について理解することができていない。 ◆三角形の底辺や高さの関係の理解を確実にしたり、求積のためにどの辺の長さを測る必要があるかを考えたりすることを通して、<u>基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにすることが求められる。</u>

問題番号	問題の概要
2 (3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く
(3) 次のような二等辺三角形があります。  上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。  平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。 辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかがわかるようにしましょう。 また、平行四辺形ABCDの面積が何 cm^2 になるのかも書きましょう。	
正答率：福岡市…44.6% 全 国…46.0% 無回答率：福岡市… 4.8% 全 国… 4.6%	
【正答例】 (求め方) 辺BCを底辺としたとき、高さは、$6 \times 2 = 12$で、12 cmです。 平行四辺形ABCDの面積は、$5 \times 12 = 60$で、60 cm^2です。 (平行四辺形ABCDの面積) $60 (\text{cm}^2)$	
(正答の条件) 次の①、②の全てを書き、平行四辺形ABCDの面積を60と書いている。 ① 平行四辺形ABCDの高さを求める式や言葉 ② 平行四辺形の面積を求める公式を用いた、平行四辺形ABCDの面積を求める式や言葉	
(正答以外の解答状況) ア 高さを6.5 cmの二つ分と捉えた求め方で、65と解答…10.8% イ 正答の条件②のみを書き、60と解答…7.5% ウ 高さを6.5 cmの二つ分と捉えた求め方で、60や65以外を解答…4.5% エ 正答の条件①のみを書き、60以外を解答…4.0% ◆アについては、平行四辺形ABCDの高さを誤って6.5 cmと捉えて、底辺が5 cmであることから65と解答したものである。一方、ウについても、高さを誤って6.5 cmと捉えて、60や65以外と解答したものである。これらの解答については、底辺と高さとの関係について理解が十分ではない。 ◆イについては、平行四辺形の面積を求める公式を用いた平行四辺形ABCDの面積を求める式や言葉は記述できているが、平行四辺形の高さを求める式や言葉は記述できていないため、求め方について、筋道を立てて説明することについて課題がみられる。 ◆エについては、平行四辺形ABCDの高さを求める式や言葉は記述できているが、平行四辺形を求める公式を用いた、平行四辺形ABCDの面積を求める式や言葉は記述できていないものの、面積60については記述できている。 ◆この問題では、平行四辺形の面積を求める公式を用いるために必要な情報が直接示されていない。したがって、「①組み合わせるに等辺三角形を構成する要素などに着目し、必要な情報を見いだす」「②平行四辺形の面積を求める公式を用いる」という順序で解答することが必要であり、<u>図形を構成する要素に着目して、求め方について筋道を立てて説明することができるようにすることが求められる。</u>	

④算数に関する児童質問紙及び学校質問紙調査の結果（肯定的回答率の比較）

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
43	算数の勉強は好きですか	68.3	67.8	+0.5
44	算数の勉強は大切だと思いますか	94.3	93.8	+0.5
45	算数の授業の内容はよく分かりますか	84.3	84.6	-0.3

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
55	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	92.4	94.6	-0.2
56	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	45.9	67.1	-21.2
57	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	72.6	82.2	-9.6

(5) 中学校国語の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、 上回っている 下回っている

分類	区分	平均正答率(%)	
		福岡市	全国（公立）
全体		66	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	82.7	79.8
	書くこと	58.3	57.1
	読むこと	50.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.1	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	59.0	56.0
	話す・聞く能力	82.7	79.8
	書く能力	58.3	57.1
	読む能力	50.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	76.1	75.1

◆領域及び評価の観点の全てで、全国平均を上回っている。

◆特に、「国語への関心・意欲・態度」や「話す・聞く能力」において、全国平均を大きく上回っている。

②平均正答率が高かった問題

(%)

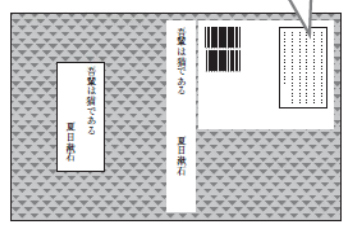
問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
1二	話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	94.2	92.5	+1.7
4一①	漢字を読む（伸ばして）	97.8	97.5	+0.3

◆問題番号1二は、「質問の意図を捉えることができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、複数の中学校の代表が参加し、地域の清掃活動についてテレビ会議を行っている場面において、参加者の質問の意図を捉えることについては、できている。

◆問題番号4一①は、「文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、「伸ばして」を文脈に即して正しく読むことはできている。なお、「伸」は、学年別漢字配当表以外の常用漢字である。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要
2ー	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する
5 4 3 2 1 ① 段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。 ② 段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。 ③ 段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。 ④ 直前の文で述べている意見の根拠であることをより詳しく説明しようとした。 ⑤ 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。	2 山田さんは、国語の時間に、「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いています。次は、山田さんが書いた「意見文の下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。<u>①</u>から<u>④</u>は、段落の番号を表します。 【意見文の下書き】 ① SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などを活用し、インターネット上で文字を通したやりとりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使おうべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。<u>④</u>からだ。 ② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで待ち合わせの相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何で来るの?」と書いたところ、「どうして行っただけなの?」という返信が来て、はっとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか?」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を与えないように<u>⑤</u>に書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。 ③ 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやりとりができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。 ④ SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉を必ず読み返してから発信するようにしている。 ー 山田さんは、「意見文の下書き」を読み返して、<u>①</u>と<u>⑤</u>のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選びなさい。

問題番号	問題の概要
3四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ
	3 次は、夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている「紹介」と、「文章の一部」です。これらを読んで、あの問いに答えなさい。 Ⅰ 【紹介】 中学教師の吾沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽そのもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。  【文章の一部】 「ここまでのあらすじ」 吾沙弥先生の家で暮らすことになった猫の「吾輩」は、ある日、家の裏にある茶島で黒猫の「黒」と出会う。「黒」は大きな体格で、車屋（人力車を引く人）に飼われている乱暴猫である。それ以来、「吾輩」はたびたび「黒」に出くわすようになる。 ある日、例のごとく吾輩と黒は暖かい茶島の中で寝ころびながら、いろいろ雑談をしていると、彼はいつもの白猫話をさも新しそうにくりかえしたあとで、吾輩に向かって下のことを質問した。 「おめえはいままでに鼠を何びきとったことがある。」 智識は黒よりもよほど発達しているつもりだが、腕力と勇気とにいたってはとうてい黒の比較にはならないと覚悟はしていたものの、この問いに接したときは、さすがにさまりがよくはなかった。けれども事実は事実で、いつわるわけにはゆかないから、吾輩は、 「笑はとうとうと思うって、まだとらない」と答えた。 黒は、彼の鼻の先からぴんとつばつてくる長いひげをきりぎりしとふるわせて、非常に笑った。元来黒は自慢をするだけにとどこか足りないところがあって、彼の気持を感心したようにのどをころも鳴らして連勝していれば、はなはだ御しやすい猫である。吾輩は彼と近づきになってからすぐにこの呼吸をのみこんだから、この場合にも、なまじいおのれを弁護してますます形勢を悪くするのも愚である、いっそのこと彼に自分の手柄話をしゃべらしてお茶をにこすにしくはないと、思案を定めた。そこでおとなしく、 「君などは年が年であるから、だいぶんとつたろう」と、そそのかしてみた。

四 【紹介】に……線部「様々に評価する」とありますが、「文章の一部」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書くこと。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--	--	--

正答率： 福岡市…23.2%
全 国…20.5%
無回答率： 福岡市…20.2%
全 国…24.1%

【正答例】

- ・「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。
- ・「腕力と勇氣とにいたってはとうてい黒の比較にならない」と書かれていて、黒に敬意をもって接していることが分かります。相手の悪い面だけでなく、よい面にも目を向けることは大切なことだと思います。
- ・元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがある」とと相手を見下すような接し方をしている、あまりよい気持ちがない。

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」の評価をしている表現を引用して書いている。
- ② ①で引用した表現から、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書いている。
- ③ ②のような「吾輩」の接し方について、自分の考えを具体的に書いている。

(正答以外の解答状況)

- ア 条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの…44.8%
イ 条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの…2.6%
ウ 全ての条件を満たさないで解答しているもの…9.1%

- ◆アについては、44.8%と高くなっている。「吾輩」が「黒」を評価している表現を文章の中から適切に引用することができていないことから、ものの見方考え方が表れている部分を明確にすることに課題がみられる。

(例) 吾輩は少々気味が悪くなって、うちへ帰りました。吾輩は黒に近づきすぎないように接していることが分かります。私は、このような吾輩の行動は理解でき、決して悪い接し方だとは思いません。

- ◆イについては、文章に表れているものの見方や考え方は捉えることはできているが、それに対する自分の考えをもつことに課題がみられる。

(例) 「腕力と勇氣とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」という部分から、吾輩は黒のことを認めながら接していることが分かり、よいと思う。

- ◆この問題は、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。全国平均は上回っているものの正答率の低さや正答以外の解答状況及び無回答率の高さから、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がみられる。文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、「読むこと」の学習過程を意識しながら、例えば、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を位置付けるなど指導の在り方をさらに充実させることが求められる。

④国語に関する生徒質問紙及び学校質問紙調査の結果（肯定的回答率の比較）

【生徒質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
43	国語の勉強は好きですか	64.4	60.8	+3.6
44	国語の勉強は大切だと思いますか	93.8	91.6	+2.2
45	国語の授業の内容はよく分かりますか	78.3	80.1	-1.8

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
53	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか	95.6	94.3	+1.3
54	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか	89.9	92.7	-2.8

(6) 中学校数学の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

全国平均と比較して、 上回っている 下回っている

分類	区分	平均正答率(%)	
		福岡市	全国（公立）
全体		60	57.2
学習指導要領の領域	数と式	68.2	64.9
	図形	54.9	51.4
	関数	57.7	56.4
	資料の活用	56.0	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		
	数学的な見方や考え方	44.2	41.1
	数学的な技能	79.2	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	68.3	65.6

◆領域及び評価の観点の全てにおいて、全国平均を上回っている。

◆特に、「図形」や「数学的な見方や考え方」において、全国平均を大きく上回っている。

②平均正答率が高かった問題

(%)

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
6 (1)	四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	86.7	83.9	+2.8
7 (1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	95.0	93.5	+1.5

◆問題番号6（1）は、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、具体的な事象の中に数量の関係を見だし、その関係について式を変形して表すことについてはできている。

◆問題番号7（1）は、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨であり、重さと時間の関係を表やグラフに表したもののから必要な情報を適切に読み取ることについてはできている。

③課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要
7 (2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する

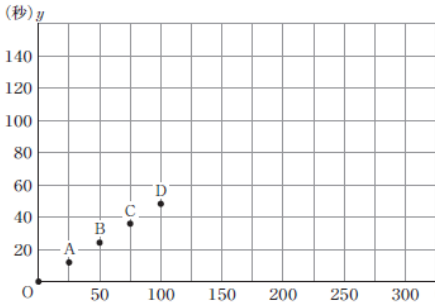
7 学級委員の健斗さんは、2分間スピーチの時間をはかるための砂時計をペットボトルで作ることにしました。その砂時計は、ペットボトルに砂を入れ、砂を通すための穴をあけた厚紙をペットボトルの間にはさんで作ります。

健斗さんは、ペットボトルに入れる砂の重さを決めると、砂が落ちきるまでの時間が決まると考えました。そこで、砂の重さが x g のときに、砂が落ち始めてから落ちきるまでの時間を y 秒として調べ、その結果を、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



調べた結果

砂の重さと砂が落ちきるまでの時間					
砂の重さ x (g)	0	25	50	75	100
砂が落ちきるまでの時間 y (秒)	0	11.9	24.2	36.0	48.3



(2) 健斗さんは、2分をはかるために、砂時計に必要な砂の重さを調べます。

そこで、調べた結果のグラフにおいて、原点 O から点 D までの点が一直線上にあるとし、砂の重さが増えてもすべての点と同じ直線上にあると考えることにしました。

このとき、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に必要な砂の重さを求める必要はありません。

正答率： 福岡市…29.0%
全 国…27.7%
無回答率： 福岡市…22.0%
全 国…24.7%

【正答例】 原点 O を通る直線のグラフをかき、 $y=120$ のときの x 座標を読む。

(正答の条件)

次のことについて記述しているもの

＜グラフを用いることについて記述している場合＞

次の (a)、(b) について記述している。

(a) 直線のグラフをかいて利用すること。

(b) y 座標が 120 のときの x 座標を読むこと。

＜式を用いることについて記述している場合＞

次の (c)、(d) について記述している。

(c) 比例の式又は一次関数の式を求めて利用すること。

(d) $y=120$ を代入して、 x の値を求めること。

＜表や数値を用いることについて記述している場合＞

次の (e)、(f) について記述している。

(e) 表や数値を用いて割合を求めて利用すること

(f) 砂が落ちきるまでの時間が 120 秒になる砂の重さを算出すること。

(正答以外の解答状況)

ア (a)のみを記述しているもの…14.6% イ (c)のみを記述しているもの…7.9%
ウ (e)のみを記述しているもの…4.3% エ 条件を何も満たさないで記述しているもの…19.9%

◆アについては、「直線のグラフを書いて利用する」といった「用いるもの」については記述できているが、「用い方」について数学的に説明することができていない。

◆イについては、「比例の式または一次関数の式を求めて利用する」ことのみを記述しており、アと同様にその「用い方」について数学的に説明することができていない。

◆ウについては、「表や数値を用いて割合を求めて利用する」ことのみを記述しており、アやイと同様に、その「用い方」について数学的に説明することができていない。

◆この問題は、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。正答率の低さや、正答以外の解答状況及び無回答率から、「用いるもの」(表、式、グラフ)を明確にすることはできているものの、その「用い方」(x と y の関係式にある値を代入して求めるなど)についての記述に課題が見られることから、他者と協働的に問題を解決させたり、問題解決の過程を自ら振り返らせたりする際に、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりすることができるような指導の充実が求められる。

問題番号

問題の概要

8

(3)

「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。

8

桃花さんは、5月にA市のキャンプ場に行くことになりました。キャンプの準備をするために、キャンプ場の過ごしやすさについて、気候に着目し、A市の昨年5月の最高気温、最低気温、日照時間、最大瞬間風速、降水量をインターネットで調べました。さらに、調べた最高気温から最低気温をひいて気温差を求め、下の表のようにまとめました。

調べたこと

日付	最高気温(℃)	最低気温(℃)	気温差(℃)	日照時間(時間)	最大瞬間風速(m/秒)	降水量(mm)
1日	20.9	6.9	14.0	5.8	7.4	0.0
2日	25.9	9.1	16.8	12.0	7.3	0.0
3日	27.3	12.8	14.5	10.3	8.2	0.0
4日	20.3	11.8	8.5	2.5	9.5	0.0
5日	23.5	9.4	14.1	9.9	11.9	0.5
6日	13.2	5.5	7.7	0.1	8.7	2.0
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
31日	20.9	9.2	11.7	2.2	9.1	0.0

○日照時間とは、1日のうちで、日光によってものの影ができた時間の合計のこと。

(3)

桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

気温差の度数分布多角形

気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

正答率： 福岡市…14.0%
全 国…11.1%

無回答率： 福岡市…27.3%
全 国…32.2%

(正答の条件)

次の(a)、(b)について記述しているもの

(a) 6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にあること。

(b) 日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあること。

(正答以外の解答状況)

ア 度数分布多角形の相対度数に着目して記述しているもの…8.2%

イ 度数分布多角形について、最小値、最大値、最頻値など、ある点を比較して記述しているもの…6.4%

ウ 条件を何も満たさないで記述しているもの…19.9%

◆アについては、「6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にある」ことを明示せず、度数分布多角形の相対度数を比較して記述しており、データの傾向を的確に捉えることができていない。

◆イについては、「6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にある」ことを明示せず、度数分布多角形についてある点を比較して記述をしており、

◆この問題は、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。正答率の低さや、正答以外の解答状況及び無回答率から、事柄が成り立つ理由を説明することについて課題が見られることから、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で、「○○であるから、△△である」のような形で、「根拠」と「成り立つ事柄」の両方について説明できるよう指導を充実させることが求められる。

④数学に関する生徒質問紙及び学校質問紙調査の結果（肯定的回答率の比較）

【児童質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
43	数学の勉強は好きですか	63.1	59.1	+4.0
44	数学の勉強は大切だと思いますか	86.6	84.1	+2.5
45	数学の授業の内容はよく分かりますか	74.9	74.6	+0.3

【学校質問紙】

(%)

番号	質問事項	福岡市	全国	差
55	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	88.4	92.7	-4.3
56	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	66.6	75.8	-9.2
57	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	71.0	78.1	-7.1

3 経年変化からみた学力等の状況について

(1) 同一児童生徒群（平成 30 年度小学校 6 年生、令和 3 年度中学校 3 年生）の結果比較

①各教科、観点ごとの平均正答率

(%)

国語の観点	H30 小学校6年生						R3 中学校3年生		
	国語A			国語B			国語		
	福岡市	全国	全国との差	福岡市	全国	全国との差	福岡市	全国	全国との差
国語への関心・意欲・態度				32.6	33.2	-0.6	59.0	56.0	3.0
話す・聞く能力	92.5	90.8	1.7	66.7	64.6	2.1	82.7	79.8	2.9
書く能力	76.7	73.8	2.9	45.8	45.6	0.2	58.3	57.1	1.2
読む能力	75.6	74.0	1.6	50.5	50.8	-0.3	50.5	48.5	2.0
言語についての知識・理解・技能	68.2	67.0	1.2				76.1	75.1	1.0

算数・数学の観点	H30 小学校6年生						R3 中学校3年生		
	算数A			算数B			数学		
	福岡市	全国	全国との差	福岡市	全国	全国との差	福岡市	全国	全国との差
算数・数学への関心・意欲・態度									
数学的な考え方				49.9	49.2	0.7	44.2	41.1	3.1
数量や図形についての技能	63.1	63.0	0.1				79.2	77.7	1.5
数量や図形についての知識・理解	64.7	63.8	0.9	75.2	71.7	3.5	68.3	65.6	2.7

- ◆国語については、平成 30 年度小学校調査において「国語への関心・意欲・態度」「読む能力」の観点で、全国平均を下回っていたものの、令和 3 年度中学校調査では、どちらも全国平均を上回っている。
- ◆中でも、「国語への関心・意欲・態度」において、大きな向上が見られる。
- ◆算数・数学については、平成 30 年度小学校調査において全国平均を下回った観点は見られなかったが、令和 3 年度中学校調査において「数学的な考え方」において大きな向上が見られる。

②児童生徒質問紙の状況

(%)

朝食を毎日食べていますか			
	H30 小学校	R3 中学校	差
肯定的回答率	92.8	91.7	
全国との差	-1.7	-1.1	0.6

毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか			
	H30 小学校	R3 中学校	差
肯定的回答率	88.9	93.5	
全国との差	0.1	0.8	0.7

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか			
	H30 小学校	R3 中学校	差
肯定的回答率	67.0	64.1	
全国との差	-0.6	0.6	1.2

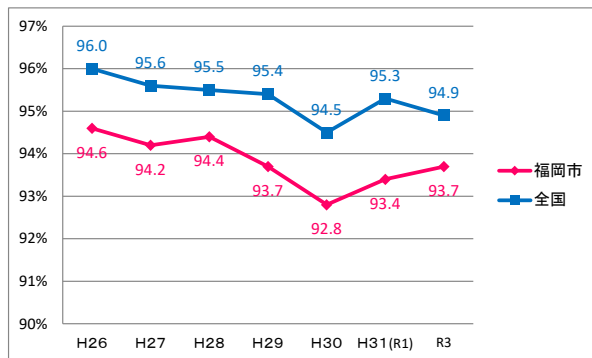
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか			
	H30 小学校	R3 中学校	差
肯定的回答率	80.6	74.9	
全国との差	-2.8	0.3	3.1

- ◆朝食や起床時刻などの基本的な生活習慣については、平成 30 年度小学校 6 年生時点から向上している。
- ◆「家で、自分で計画を立てて勉強すること」については、平成 30 年度小学校 6 年生では、全国平均を下回っていたものの、令和 3 年度中学校 3 年生では、全国平均を上回るとともに、平成 30 年度小学校 6 年生時点から向上している。
- ◆「算数・数学の理解度」については、平成 30 年度小学校 6 年生では、全国平均を下回っていたものの、令和 3 年度中学校 3 年生では、全国平均を上回るとともに、平成 30 年度小学校 6 年生時点から向上している。

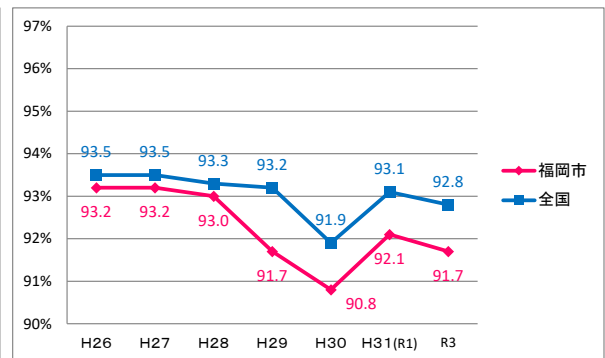
(2) 児童生徒質問紙における生活習慣や学習習慣等の状況

①朝食（肯定的回答率）

【小学校】



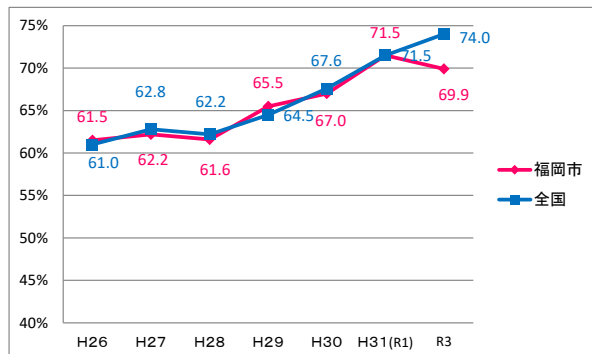
【中学校】



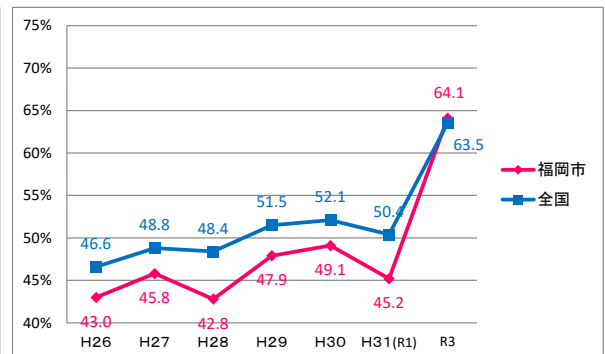
- ◆「朝食を毎日食べていますか」という質問項目においては、小中学校ともに、全国平均より低い値で推移している。
- ◆小学校においては、全国平均が令和元年度から下降しているものの、福岡市においては、令和元年度から上昇傾向がみられた。
- ◆中学校においては、全国平均と同様に、令和元年度から下降しており、全国との差もわずかに開いている。

②計画的な勉強（肯定的回答率）

【小学校】



【中学校】



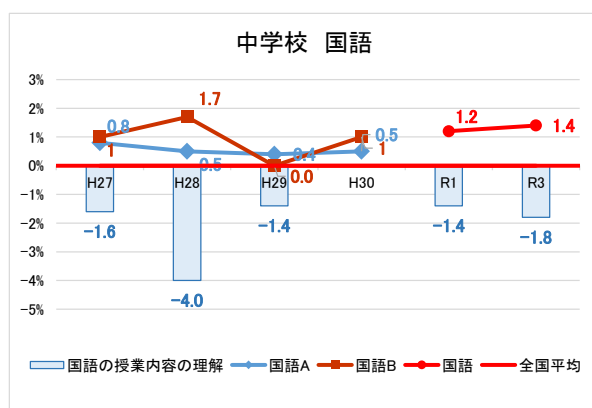
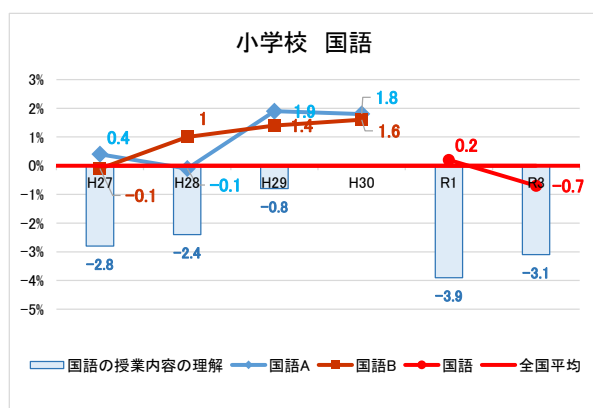
- ◆「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」という質問項目については、小学校においては、令和元年度全国平均と同等であったが、令和3年度は全国平均を下回っている。
- ◆中学校においては、これまで全国平均を下回る値で推移していたものの、令和3年度は全国平均を上回っている。

(3) 授業内容の理解に関する児童生徒質問紙の結果と平均正答率の比較

福岡市ではかねてより、児童生徒の授業内容の理解について、第2次福岡市教育振興基本計画における評価指標とするなど重視している。ここでは、平成27年度から令和3年度までの、児童生徒質問紙における国語及び算数・数学の授業内容の理解度に関する質問項目の肯定的回答率の全国との差と、各教科平均正答率の全国平均正答率との差の相関関係について整理を試みた。

※平成30年度については、児童生徒質問紙において国語の授業内容の理解に関する質問項目なし

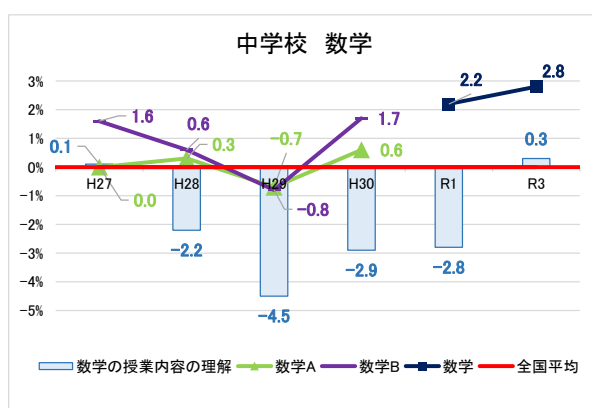
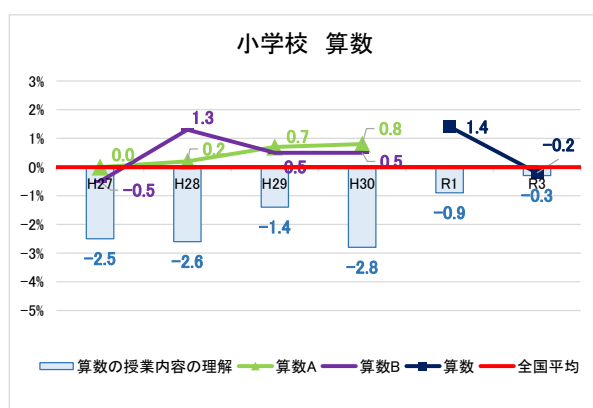
①国語の状況



◆小学校国語では、授業内容の理解の値が全国よりも大きく下回っている場合において、平均正答率の全国との差の値についても低くなる傾向がみられる。特に平成27年度、28年度、令和元年度、3年度においてその傾向が強く表れている。

◆中学校国語では、小学校国語のような傾向はみられない。

②算数・数学の状況



◆小学校算数では、授業内容の理解の値と平均正答率との相関はみられない。

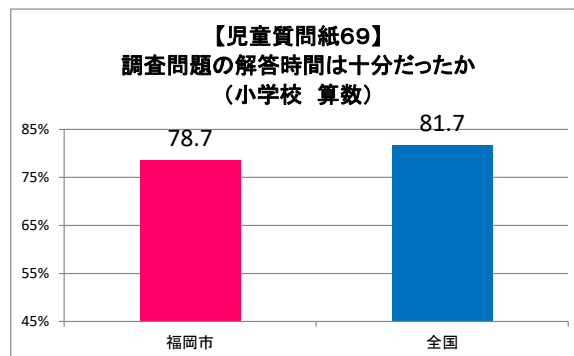
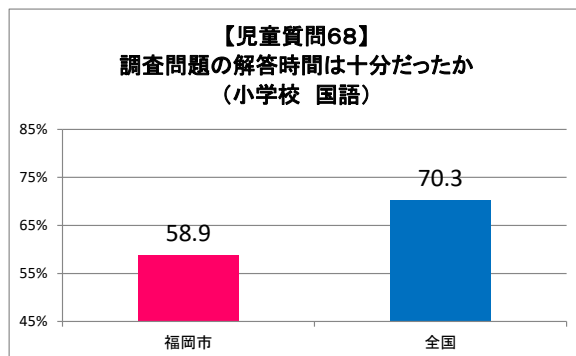
◆中学校数学では、授業内容の理解の値が低くなる場合において、平均正答率の差の値についても低下する傾向がみられる。特に、平成29年度に授業内容の理解と平均正答率との関係が強く表れている。中学校数学においては、児童生徒の授業内容の理解と平均正答率との関係に注視する必要がある。

4 問題への取組みの状況及び無回答率の傾向について

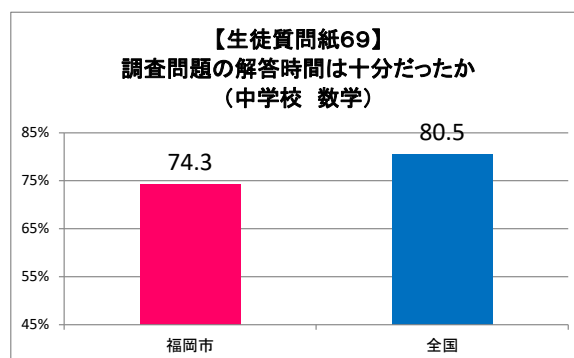
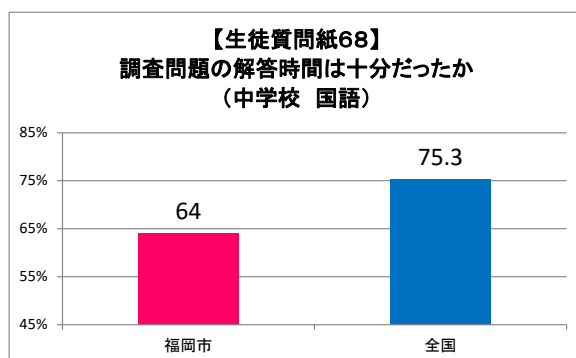
(1) 児童生徒質問紙調査における、問題への取組みの状況

① 調査問題の解答時間に対する児童生徒の意識（肯定的回答率の比較）

【小学校】



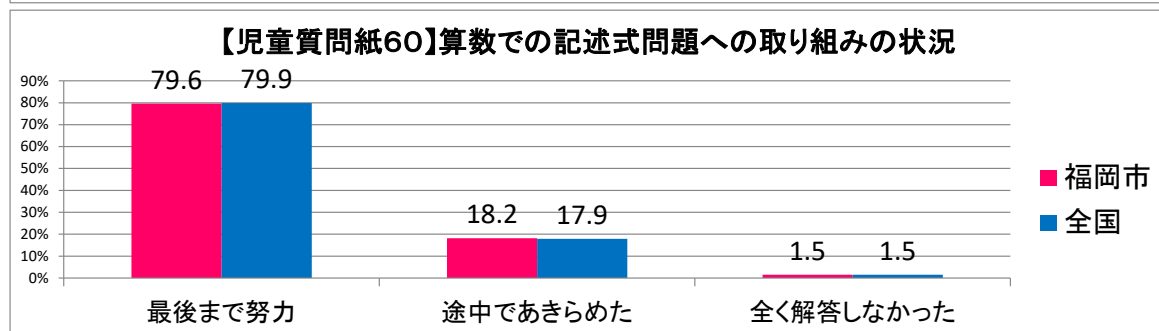
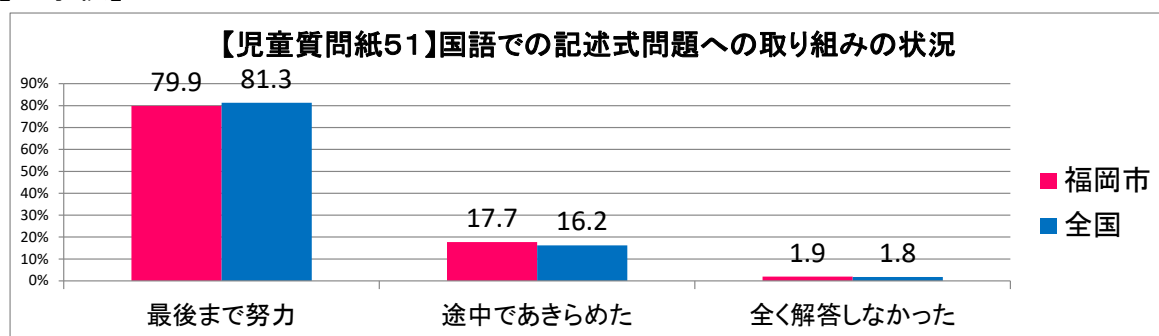
【中学校】



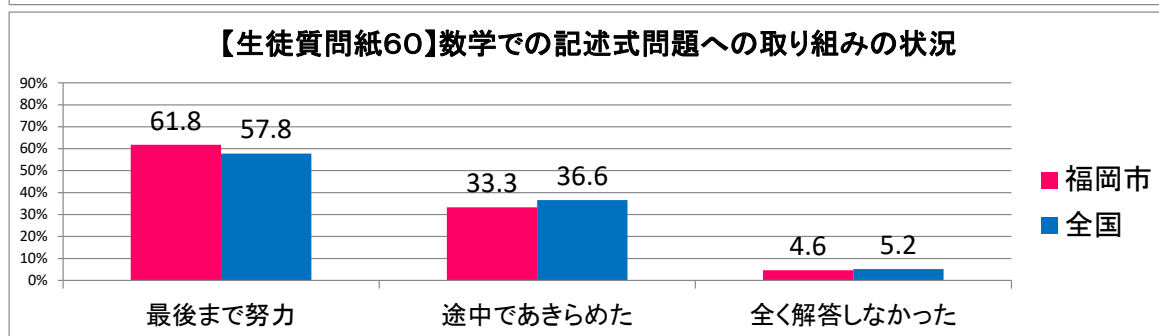
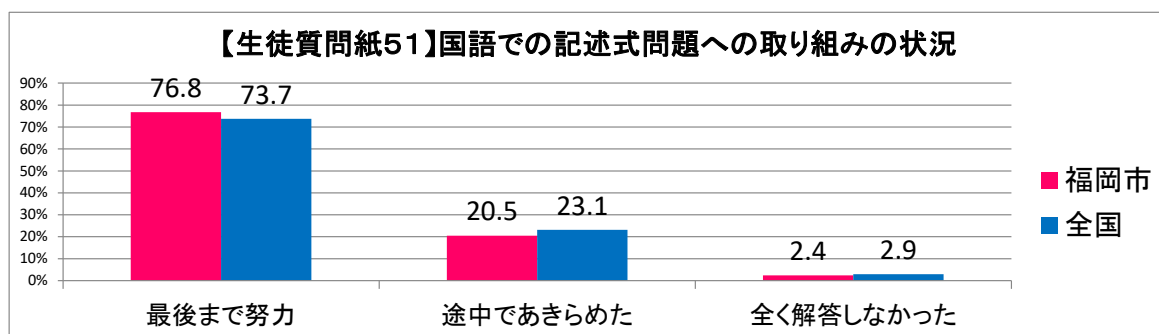
◆小中学校ともに、国語、算数・数学の「調査問題の解答時間は十分であったか」との質問に対して、肯定的回答率が全国を下回る結果となった。特に、小中学校ともに国語において、全国との差が大きく開く傾向がみられる。

②国語及び算数・数学における記述式問題への取り組みの状況

【小学校】



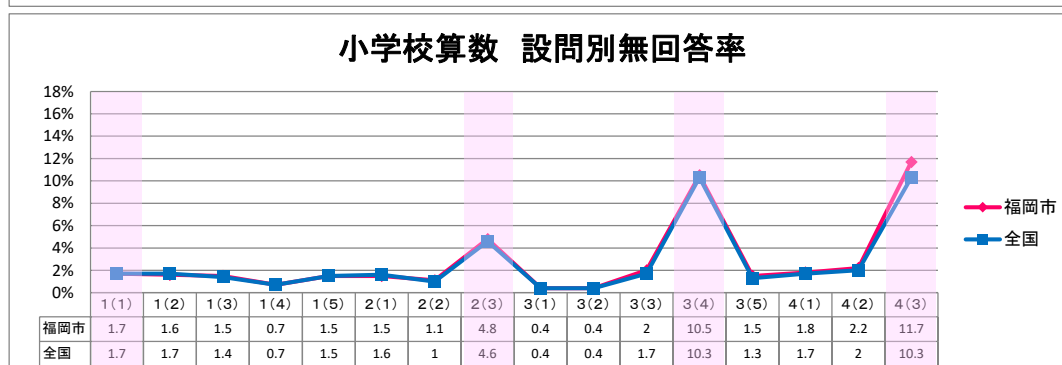
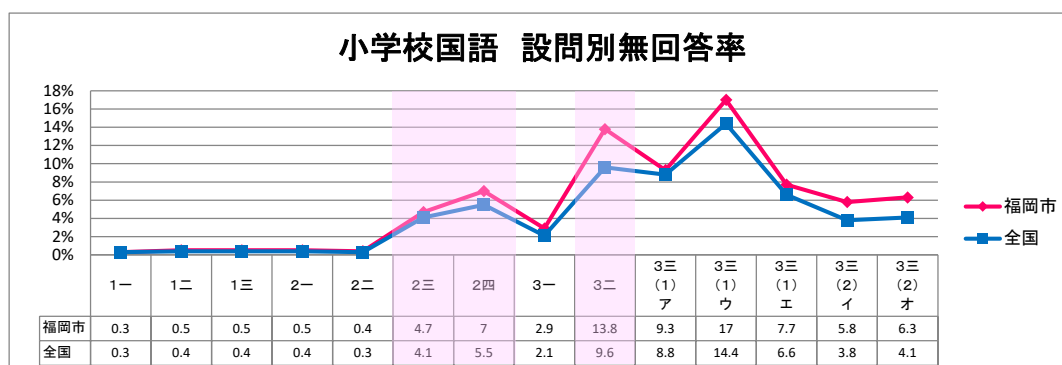
【中学校】



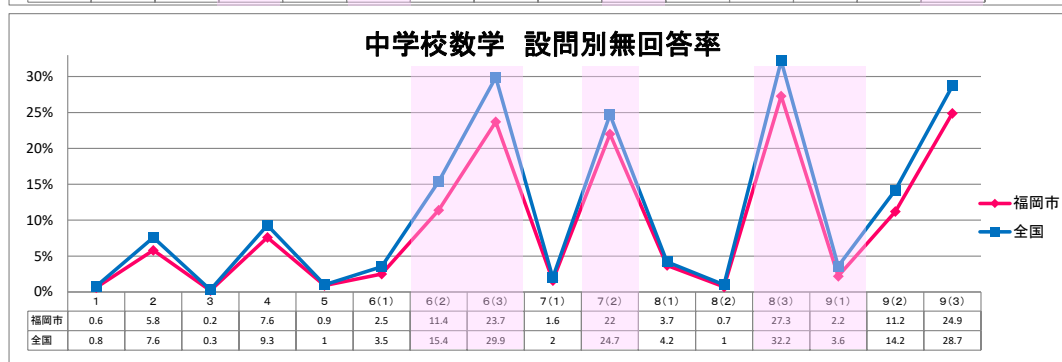
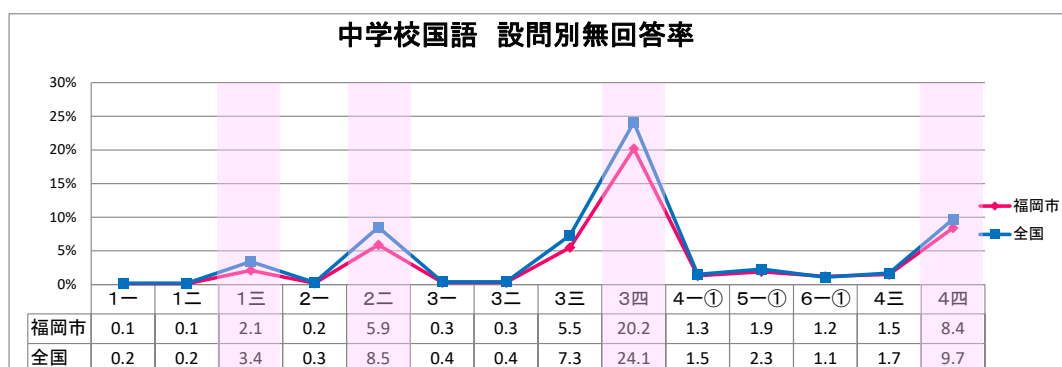
- ◆小学校においては、国語、算数ともに、全国との大きな差は見られないものの、「最後まで努力」の数値が全国よりも低く、「途中であきらめた」の数値が、全国よりも高くなっている。
- ◆中学校においては、国語、数学ともに、「最後まで努力」の数値が全国よりも高く、「途中であきらめた」「全く回答しなかった」の数値が全国よりも低くなっている。
- ◆上記のような傾向は、過年度においても同様の傾向が見られている。

(2) 無回答率の状況

【小学校】

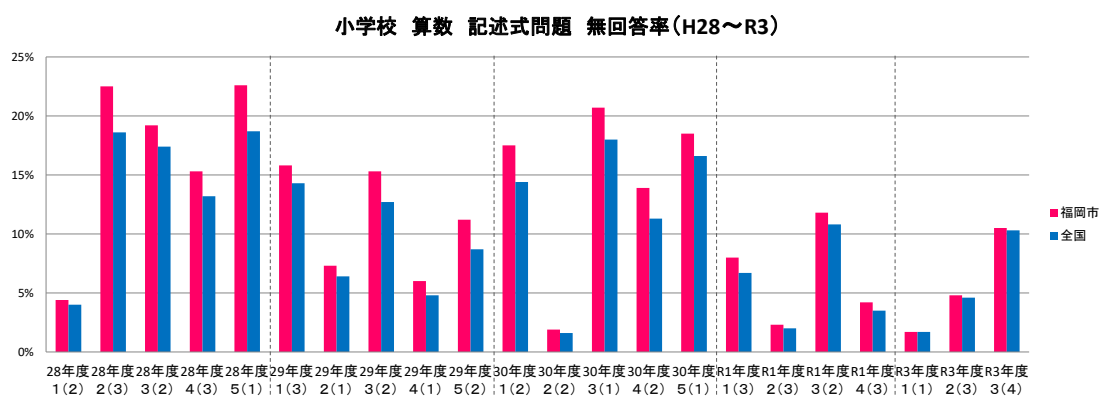
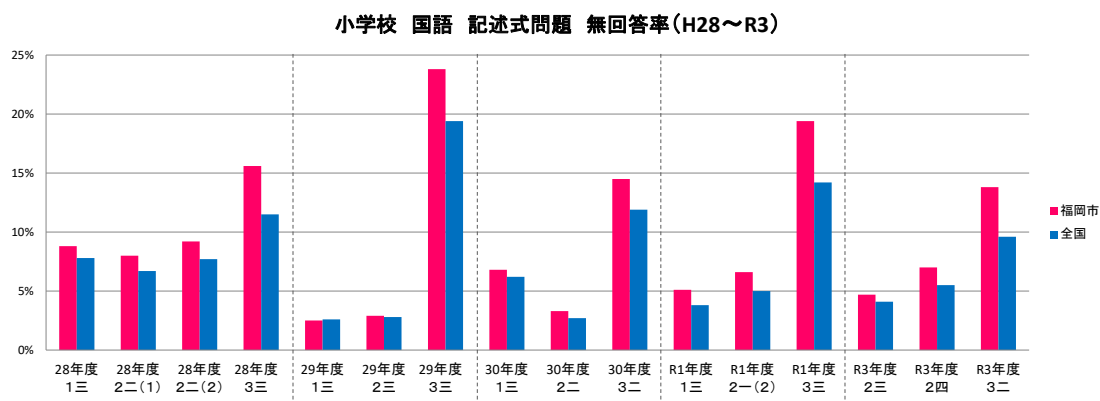


【中学校】

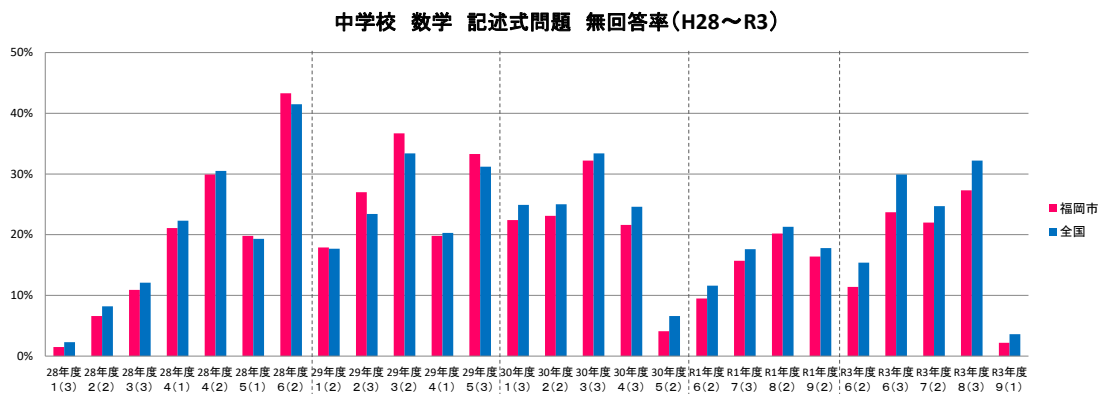
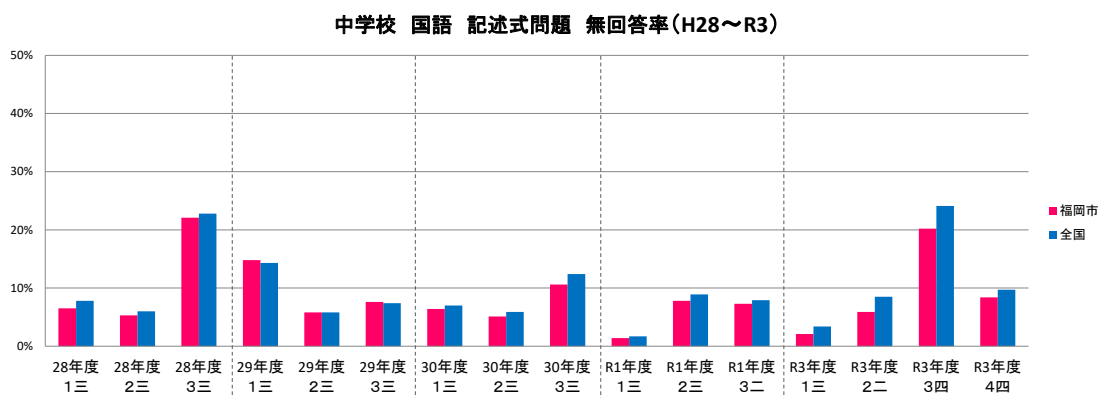


- ◆小学校では、無回答率が全国より上回る問題数が多い傾向がみられる。特に、国語において、その傾向が顕著にみられる。ピンク網掛け部分が記述式の問題であり、国語において、全国との差が開く傾向がみられる。
- ◆中学校では、国語、数学ともに、無回答率が全国より下回る傾向がみられる。

(3) 平成 28 年度から令和 3 年度における記述式問題での無回答率の状況
【小学校】



【中学校】



- ◆小学校国語では、無回答率が全国より高い傾向が見られる。特に、どの年度においても最後の記述式問題において、無回答率が全国を大きく上回っている。
- ◆小学校算数では、国語と同様に記述式問題の無回答率が、全国より上回る傾向にあるが、令和元年度及び令和３年度については、全国との差の開きが小さくなっている。
- ◆中学校国語では、無回答率が全国より低い傾向が見られる。令和３年度は、国語、数学ともに全国との差の開きが大きくなっている。

5 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組みの状況

(1) 主体的・対話的で深い学びに関する質問項目①

(学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査の比較)

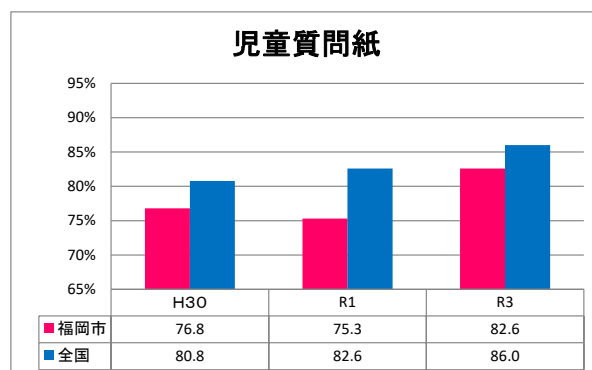
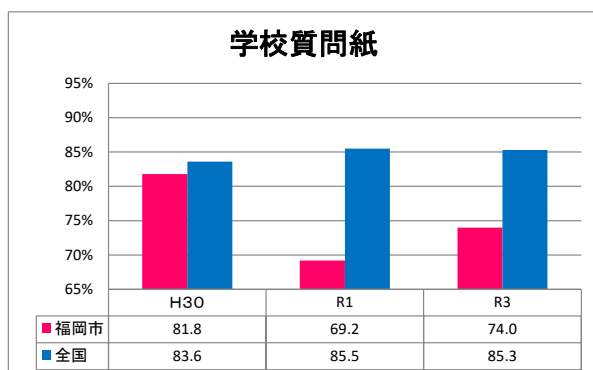
・学校質問紙（小中ともに 29）

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

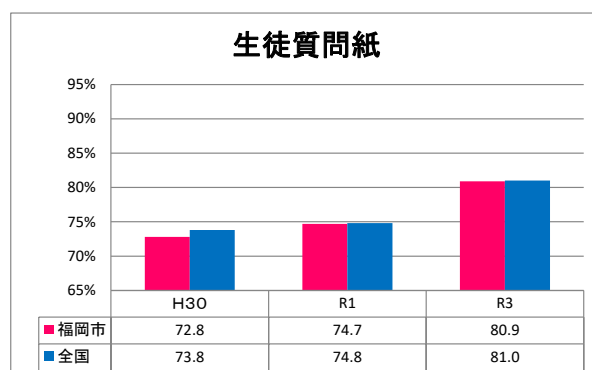
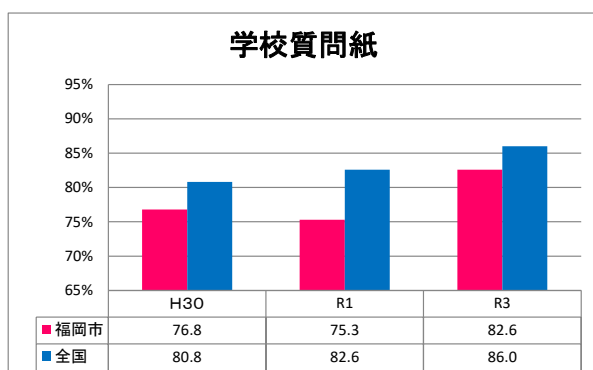
・児童生徒質問紙（小中ともに 33）

5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

【小学校】



【中学校】



- ◆小中ともに学校質問紙 29 の「調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」については、令和 3 年度も、全国を下回っている。小学校においては、令和元年度及び令和 3 年度と全国を大きく下回っている。
- ◆児童生徒質問紙 33 の「5 年生まで（1、2 年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」については、小学校は全国を下回り、中学校においてもわずかに全国を下回っている。小学校は、令和元年度と比較して、全国との差が縮小している。
- ◆学校質問紙、児童生徒質問紙ともに、向上傾向がみられることから、「自分で考え、自分から取り組む」ことについて、各学校における取組みが改善され、児童生徒の意識についても向上しているものと考えられる。

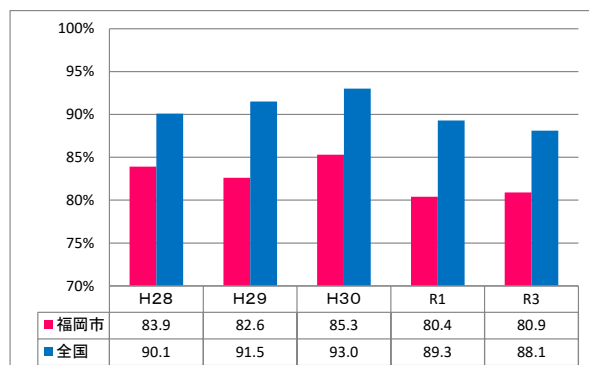
(2) 主体的・対話的で深い学びに関する質問項目②

①指導方法工夫改善について（学校質問紙調査 肯定的回答率の結果）

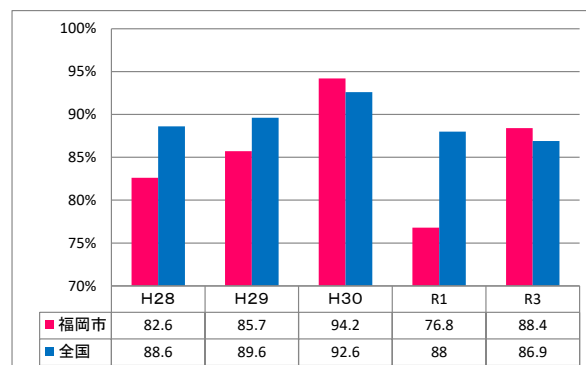
・学校質問紙（小中ともに 36）

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

【小学校】



【中学校】



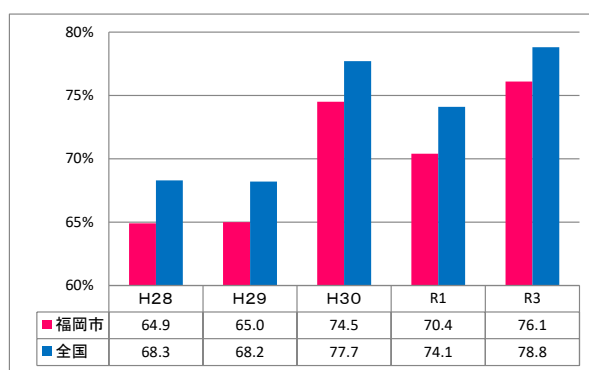
- ◆学校質問紙 36 は、各学校における指導方法の工夫改善に係る質問項目である。
- ◆小学校においては、全国を下回っているものの、令和元年度から若干の向上傾向がみられる。
- ◆中学校においては、令和元年度大幅に全国を下回っていたものの、令和3年度は全国を上回る値まで向上している。

②話し合う活動について（児童生徒質問紙 肯定的回答率の結果）

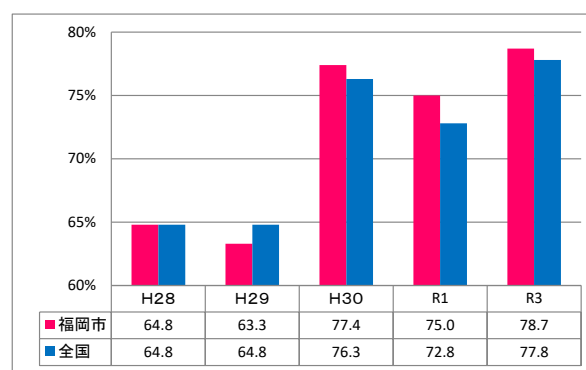
・児童生徒質問紙（小中ともに 37）

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

【小学校】



【中学校】



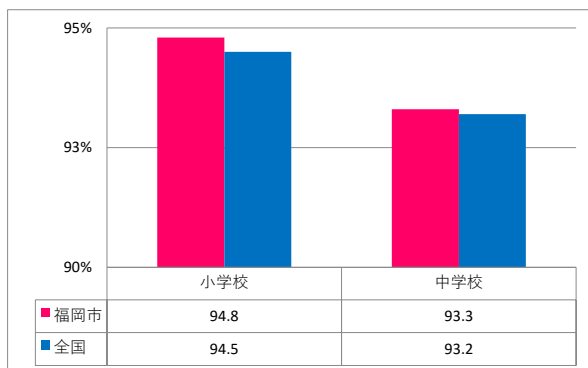
- ◆児童質問紙 37 は、対話的な学びに関する質問項目である。
- ◆小学校においては、全国を下回っているものの、令和元年度から向上している。
- ◆中学校においては、平成30年度から全国を上回る値で推移しているとともに、令和元年度から向上している。

6 ICTを活用した学習状況

(1) 児童生徒質問紙調査の結果について

・児童生徒質問紙（小中ともに 28） 肯定的回答率

学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



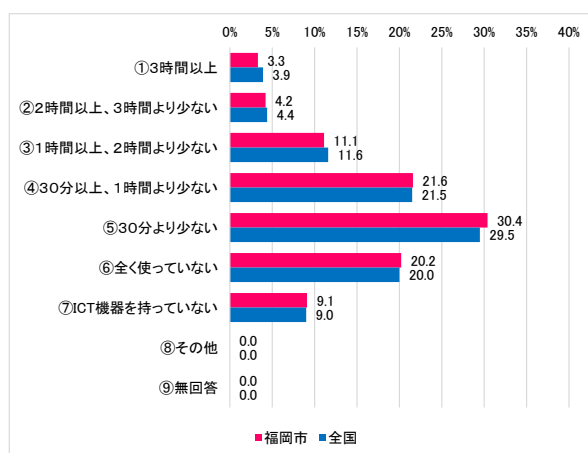
◆小中学校ともに、肯定的回答率が全国を上回っている。

◆ICT機器を使うことが勉強の役に立つと感じている児童生徒が、9割を超えている。

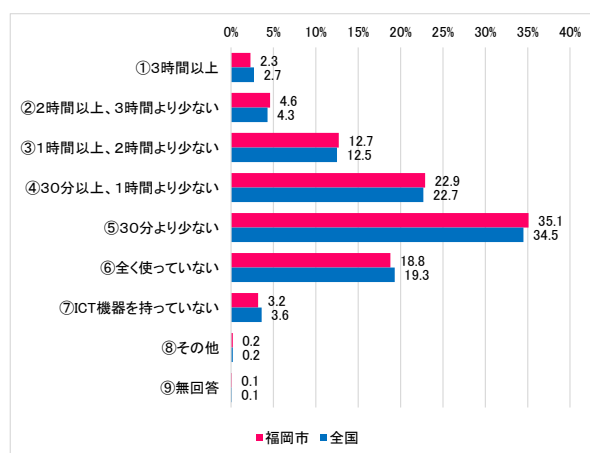
・児童生徒質問紙（小中ともに 28）

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか

【小学校】



【中学校】

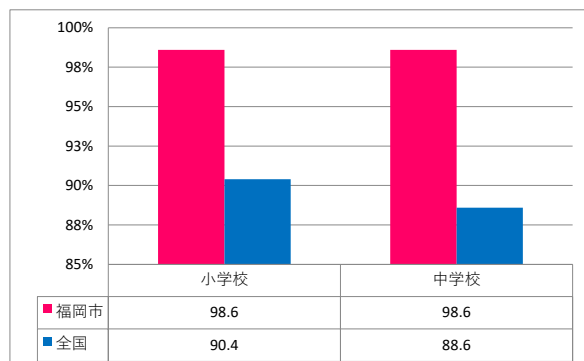


◆小中学校ともに、全国の傾向とほぼ同様であり、「30分より少ない」と回答した児童生徒が最も多くなっている。

(2) 学校質問紙調査の結果について

・学校質問紙（小中ともに 63）

コンピュータなどの I C T 機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができていますか

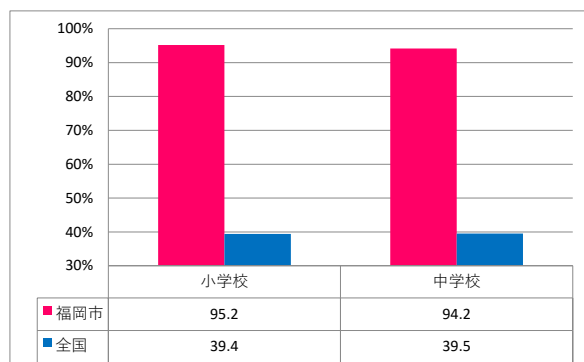


◆小中学校ともに、9割以上の学校において、準備ができていると回答している。

◆小中学校ともに、肯定的回答率が全国を大きく上回っている。

・学校質問紙（小中ともに 64）

コンピュータなどの I C T 機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか



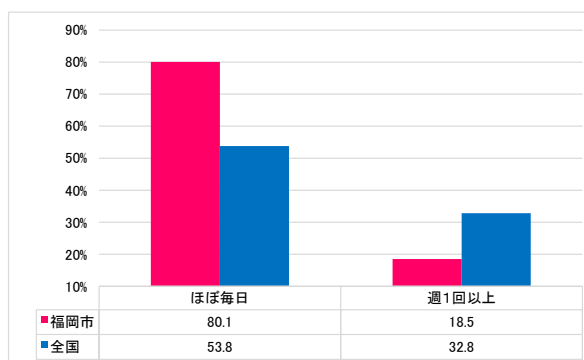
◆小中学校ともに、9割以上の学校において、準備ができていると回答している。

◆小中学校ともに、肯定的回答率が全国を大きく上回っている。

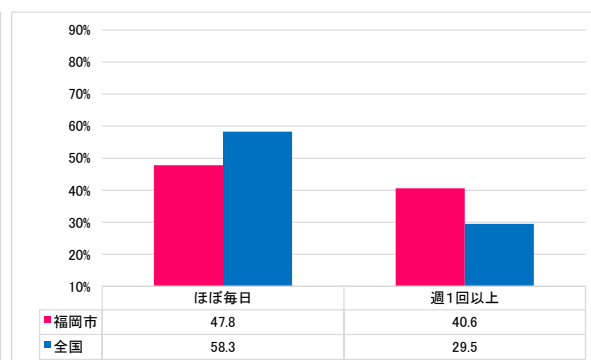
・学校質問紙（小中ともに 66）

前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などの I C T 機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行いましたか

【小学校】



【中学校】



◆小学校においては、8割以上の学校が「ほぼ毎日」と回答しており、全国を上回っている。

◆中学校においては、「週1回以上」が全国を上回っている。

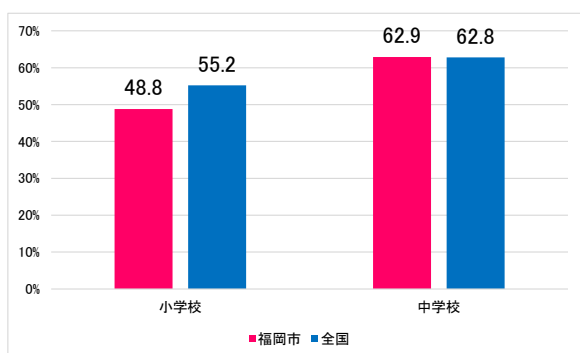
7 新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業と児童生徒の学習状況・学校の取組みについて

令和3年度調査では、児童生徒質問紙及び学校質問紙において、新型コロナウイルス感染症の影響による児童生徒の学習状況等についての調査が実施されている。ここでは、福岡市と全国との調査結果の比較を行った。

(1) 児童生徒質問紙調査の結果について

①勉強面での不安

「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合

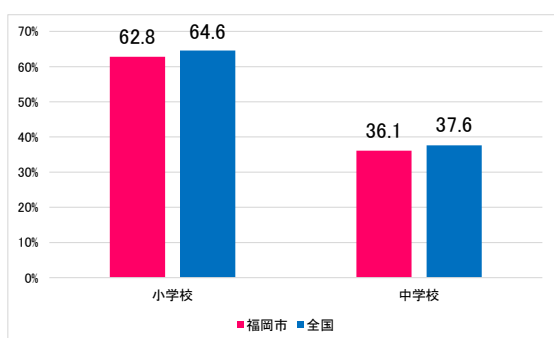


◆小学校では、勉強について不安を感じたと回答した児童の割合が全国を下回り、中学校では、勉強について不安を感じたと回答した生徒の割合が全国を若干上回った。

◆小中学校を比較すると、中学校の方が、不安を感じた生徒の割合が高く、全国においても同様である。

②計画的な学習の継続

「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合

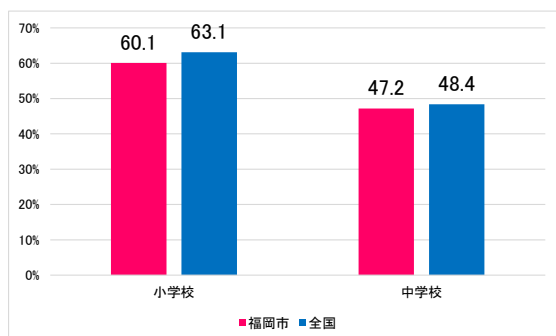


◆小中学校ともに、計画的に学習を続けることができたと回答した児童生徒の割合が、全国を下回った。

◆小中学校を比較すると、小学校の方が、計画的に学習を続けることができたと回答した児童の割合が高く、全国においても同様である。

③規則正しい生活

「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合



◆小中学校ともに、規則正しい生活を送ることができたと回答した児童生徒の割合が、若干全国を下回った。

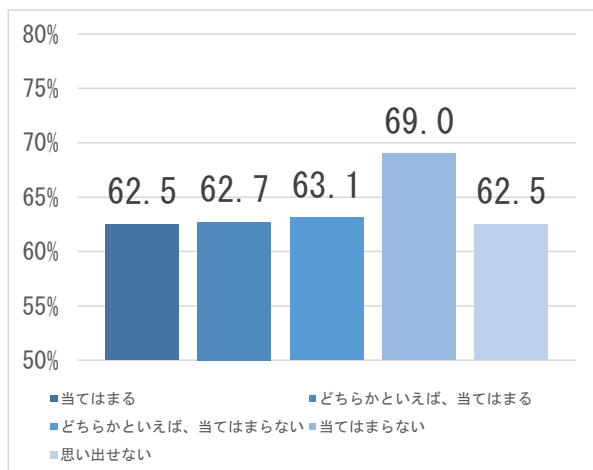
◆小中学校を比較すると、小学校の方が、規則正しい生活を送ることができたと回答した児童の割合が高く、全国においても同様である。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問項目と各教科の平均正答率のクロス集計

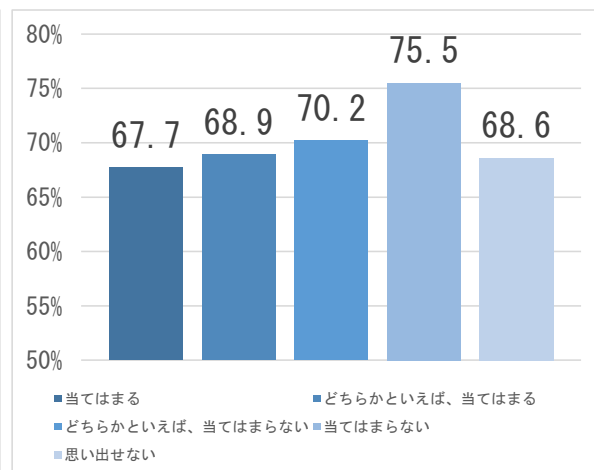
① [勉強への不安] × [各教科の平均正答率]

児童生徒質問紙「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」の回答ごとの平均正答率

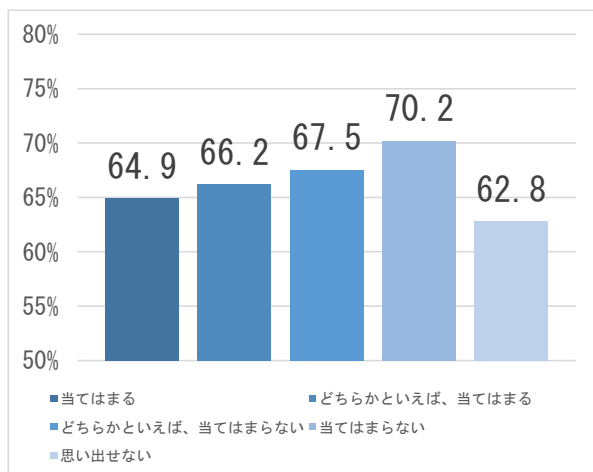
【小学校国語】



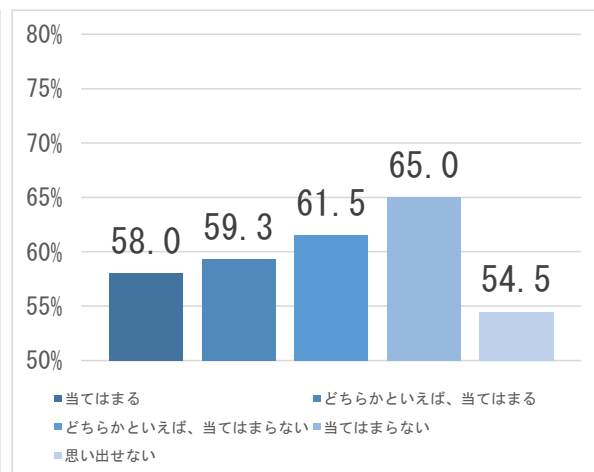
【中学校国語】



【小学校算数】



【中学校数学】

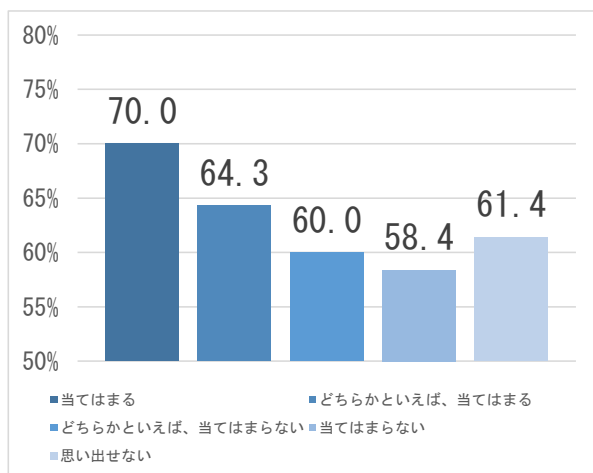


- ◆「勉強について不安を感じましたか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が低く、「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率が高くなる傾向がみられた。
- ◆「当てはまる」と「当てはまらない」における正答率の差については、中学校においてその差が大きく開いている。

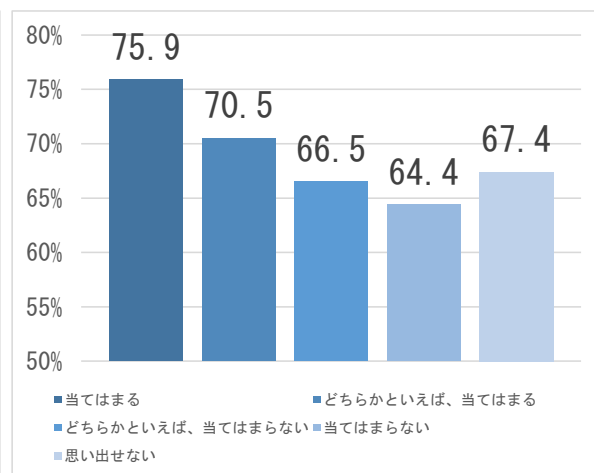
② [計画的な学習の継続] × [各教科の平均正答率]

児童生徒質問紙「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」の回答ごとの平均正答率

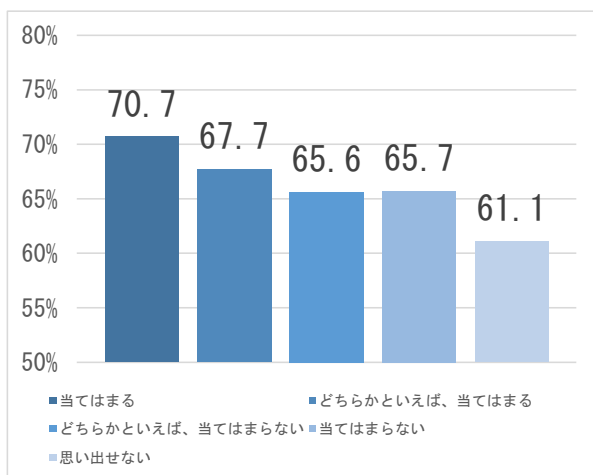
【小学校国語】



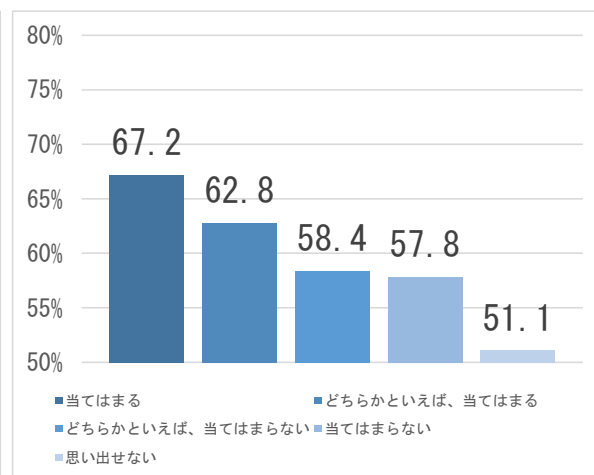
【中学校国語】



【小学校算数】



【中学校数学】



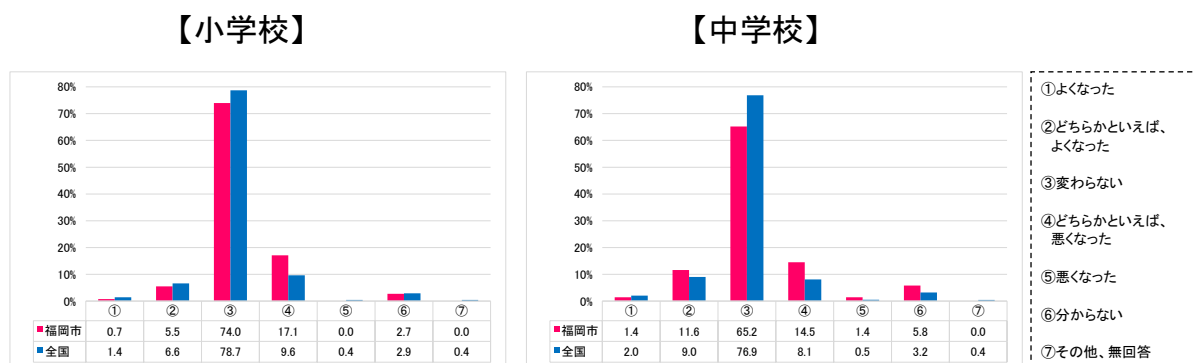
- ◆「計画的に学習を続けることができましたか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が高く、「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率が低くなる傾向がみられている。
- ◆「当てはまる」と「当てはまらない」における正答率の差については、小中学校の国語と中学校数学において、差が大きく開いている。

(3) 学校質問紙調査の結果（新型コロナウイルス感染症の影響前後※の比較）について

※「新型コロナウイルス感染症の影響前後」とは、令和2年3月以前と令和3年5月のこと

①児童生徒同士の関係

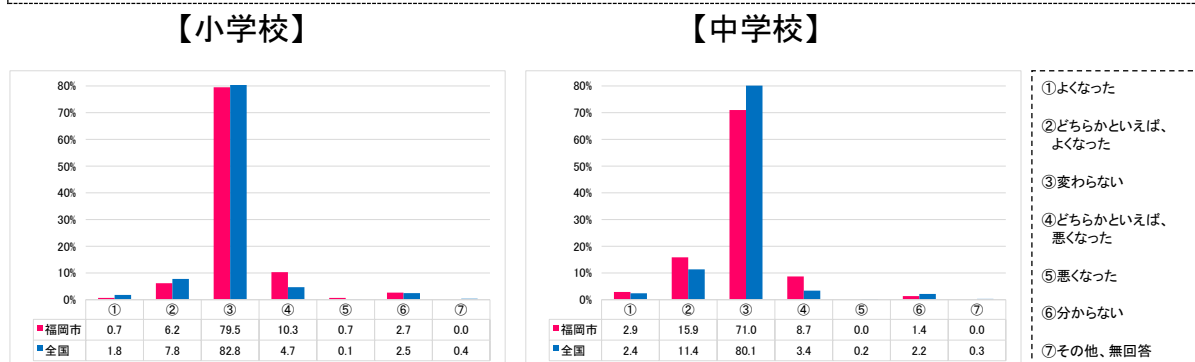
新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、どのような変化があったと思いますか 生徒同士の関係



- ◆小学校では、「④どちらかといえば、悪くなった」について、全国を上回っている。
- ◆中学校では、「②どちらかといえば、よくなった」「④どちらかといえば、悪くなった」「⑥わからない」について、全国を上回っている。

②児童生徒と教員の関係

新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、どのような変化があったと思いますか 生徒と教員の関係

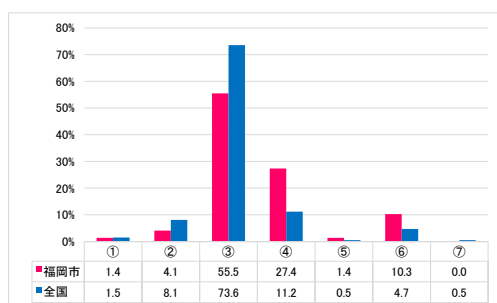


- ◆小学校では、「②どちらかといえば、よくなった」について、全国を下回り、「④どちらかといえば、悪くなった」について、全国を上回っている。
- ◆中学校では、「①よくなった」「②どちらかといえば、よくなった」「④どちらかといえば悪くなった」について、全国を上回っている。

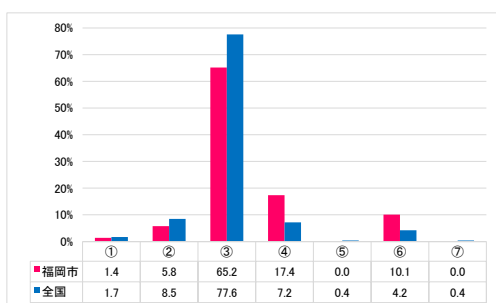
③教員と保護者の関係

新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、どのような変化があったと思いますか 教員と保護者の関係

【小学校】



【中学校】



- ①よくなった
- ②どちらかといえば、よくなった
- ③変わらない
- ④どちらかといえば、悪くなった
- ⑤悪くなった
- ⑥分からない
- ⑦その他、無回答

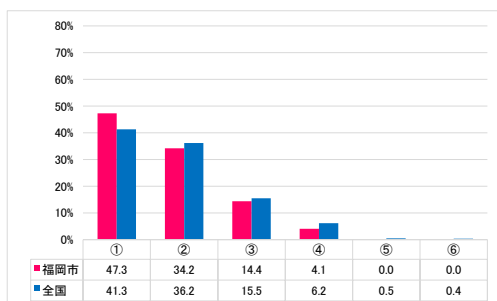
◆小学校では、「④どちらかといえば、悪くなった」「⑤悪くなった」「⑥分からない」について、全国を上回っている。

◆中学校では、「④どちらかといえば、悪くなった」「⑥分からない」について、全国を上回っている。

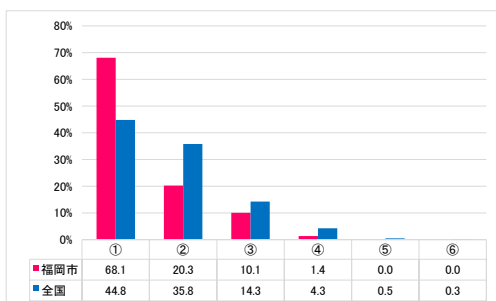
④教員の業務量

新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、どのような変化があったと思いますか 教員の業務量

【小学校】



【中学校】



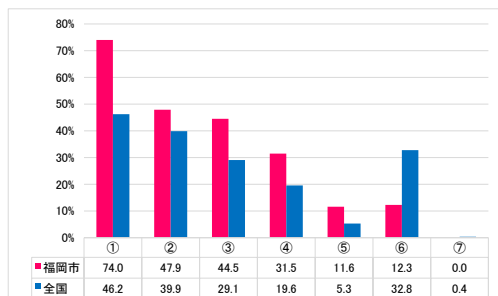
- ①増えた
- ②どちらかといえば、増えた
- ③変わらない
- ④どちらかといえば、減った
- ⑤減った
- ⑥その他、無回答

◆小中学校ともに、「①増えた」について、全国を上回っている。

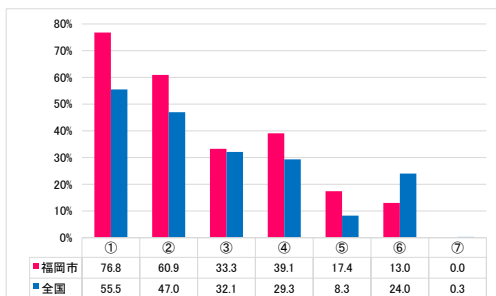
⑤児童生徒からの相談内容の変化

新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、生徒からの相談内容に変化があったのはどれですか（複数選択）

【小学校】



【中学校】



- ①学校生活における不安・ストレスに関する相談が増えた
- ②生活リズムの乱れに関する相談が増えた
- ③友人関係に関する相談が増えた
- ④家庭環境に関する相談が増えた
- ⑤①～④以外の内容に関する相談が増えた
- ⑥特になし
- ⑦その他、無回答

◆小中学校ともに、「①学校生活における不安・ストレスに関する相談が増えた」等において、全国を上回っている。

8 今後の課題

- ◆小学校においては、国語、算数ともに全国平均と同程度、中学校においては、国語、数学ともに全国平均を上回る結果であった。一方で、小学校においては、内容及び観点ごとの結果をみると、全国平均を下回っているものが散見されているため、今後、各学校において、より一層自校の課題に応じた取組みを着実に実施していくことが求められる。
- ◆小学校において、依然として無回答率が高い傾向がみられた。各学校の無回答率の現状と課題の分析を行い、各学校の課題に応じた取組みを充実させていくことが求められる。中学校においては、過年度調査に引き続き、無回答率が全国を下回る傾向にある。無回答率の状況を改善してくためには、小中学校ともに各教科等における「考えを書く」活動の効果的な位置付け方などについて、「学力向上のための授業改善の手引き」を踏まえた授業改善に取り組む必要がある。
- ◆生活習慣や学習習慣等の定着状況においては、児童生徒質問紙調査における肯定的回答率が全国平均と比べて低い傾向にある。中でも、授業内容の理解に関する質問項目について課題が見られることから、今後、各学校において、児童生徒が「分かる授業」を実施することはもちろんのこと、児童生徒が「分かっているか」を適宜確かめながら、児童生徒の理解度に応じて適切に補充学習を実施するなどすることが求められる。

9 取組みの方向性

(1) 各学校での取組み

- ◆管理職のリーダーシップによる学力向上検証改善サイクルのさらなる充実
 - ・「学力向上推進プラン」に基づく、年間を通した学力向上の取組みの推進
 - ・各種調査結果の分析に基づく、取組み内容の定期的な見直し（年度途中でも児童生徒の状況に応じてマイナーチェンジ、フルモデルチェンジ）の実施
 - ・課題のみられる児童生徒群に合った、具体的な学力向上の取組みの検討と実施
- ◆日常的・組織的な授業改善による学力向上の実現
 - ・「『目的』と『見通し』をもたせる」「『学習活動のバランス』を大切にする」「『定着』と『振り返り』を徹底する」の「授業改善のポイント」を位置付けた授業の実施
 - ・日頃の授業における「考えを書く」活動について、質や量の面からの再点検の実施
 - ・「学力向上のための授業改善の手引き」の「授業改善のポイント」をチェックリストとして活用することによる校内での授業改善の取組みの促進
- ◆児童生徒一人ひとりの学びを充実させるICTの活用
 - ・児童生徒が「分かる」授業を実現するために、オンデマンド教材やデジタル教科書などの効果的な活用
 - ・児童生徒一人ひとりの「授業内容の理解」に応じた、学習アプリの効果的な活用と補充学習の確実な実施による定着の徹底
 - ・復習、予習、自主学習にICTを活用することにより、学校での学びと家庭学習との円滑な接続

(2) 教育委員会としての取組み

- ◆全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学習定着度調査と教師の指導改善とを有機的に関連させた学力向上サイクルの定着
- ◆指導主事による学校訪問における各学校の学力等の課題の分析及び今後の具体的な取組みについての学校との双方向的な協議の充実と継続的なサポートの重点化